

学校法人大阪女学院の概要

1. 法人名と所在地

学校法人 大阪女学院

〒540-004 大阪府中央区玉造2丁目26-54

法人事務部 TEL 06-6761-4013 FAX 06-6761-0348

2. 設置する学校・学部・学科等

大阪女学院大学 大学院 21 世紀国際共生研究科

国際・英語学部

大阪女学院短期大学 英語科

大阪女学院高等学校 英語科・普通科

大阪女学院中学校

3. 各学校の学生生徒状況（2009 年 5 月 1 日）

学 校 名		入 学 定 員	学 生 ・ 生 徒 数					収 容 定 員
			1 年	2 年	3 年	4 年	合計	
大 学		150 名	166 名	119 名	141 名	198 名	624 名	660 名
短期大学		150 名	138 名	181 名	—	—	319 名	300 名
高等学校	英語科	310 名	79 名	87 名	79 名	—	844 名	930 名
	普通科		217 名	195 名	187 名	—		
中 学 校		260 名	219 名	270 名	254 名	—	749 名	630 名

4. 役員等・教職員の概要

理事総数 15名

評議員総数 31名

監事総数 2名

教職員数

部 門	教育職員		事務職員		合 計
	専 任	常・非常勤	専 任	嘱 託	
大 学 短期大学	36 名	113 名	20 名	18 名	187 名
高等学校 中 学 校	69 名	56 名	8 名	20 名	153 名
法人部門	—	—	9 名	15 名	24 名
合 計	105 名	169 名	37 名	53 名	364 名

5. 法人の沿革

明治 17 年 1 月 カンバーランド・プレビステリアン・ミッションに属していた創立者
A・D・ヘル博士によって、ウヰルミナ女学校が大阪市西区川口居留地
に開校

明治 32 年 9 月 私立学校令によって改めて創立開校

明治 37 年 4 月 浪華女学校と合併し、校名はウヰルミナ女学校として開校

明治 45 年 3 月 文部省指定校となる。

昭和 13 年 4 月 財団法人ウヰルミナ女学校認可

昭和 15 年 10 月 大阪女学院高等女学校と校名変更

昭和 16 年 1 月 法人名を財団法人大阪女学院と改称

昭和 22 年 4 月 新学制により大阪女学院中学校、大阪女学院高等学校発足

昭和 26 年 3 月 学校法人大阪女学院認可

昭和 33 年 4 月 学校法人恵星女子学園を合併し、恵星女子高等学校は大阪女学院第二高等学校となる。

昭和 43 年 2 月 大阪女学院短期大学英語科設置認可

昭和 45 年 10 月 大阪女学院第二高等学校は昭和 46 年度から募集停止に決定

昭和 47 年 2 月 大阪女学院短期大学に専攻科設置認可

昭和 61 年 12 月 大阪女学院短期大学英語科の入学定員 150 名から 250 名に変更認可

平成 2 年 12 月 大阪女学院短期大学英語科の臨時定員増認可。平成 3 年度から平成 11 年度までの期間、入学定員 250 名から 350 名に変更

平成 11 年 7 月 大阪女学院短期大学英語科の臨時定員廃止に伴う恒常的定員許可。入学定員 350 名を平成 12 年度から毎年 10 名を減員し、平成 16 年度及び平成 17 年度以降 300 名に変更

平成 15 年 11 月 大阪女学院大学国際・英語学部設置認可

平成 19 年 6 月 大阪女学院第二高等学校廃止

平成 21 年 4 月 大学院設置申請中

2010年5月10日

2009年度大阪女学院中学校・高等学校事業報告

I. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

1. キリスト教に基づく人間理解の深化

宗教教育については、長年の実績の積み重ねを踏まえた上で、キリスト教に基づく人間理解を深め、一人ひとりがかけがえのない存在であることの自覚を促し、生徒自らの生き方と他者とのかかわり方を学ばせる。また、入学後の保護者に対しても、保護者としてのあり方や学校理解を深める方策を検討していく。

1) 年間聖句 「知る力と見抜く力を身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。」(フィリピの信徒への手紙1章9節～10節)

2) 礼拝 【中学校】 ・火、木は中学1年、中学2年、中学3年合同で合同でチャペル礼拝
・月、水、金はクラス礼拝

【高等学校】 ・月、水、金 高校1年、高校2年、高校3年合同でチャペル礼拝

・火、木はクラス礼拝

・英語科英語礼拝 (年7回) OCC ホール

・英語礼拝 (年4回) チャペル

・特別礼拝 音楽礼拝(年3回)、イースター礼拝、母の日礼拝、
花の日礼拝(新型インフルエンザに
収穫感謝礼拝、クリスマス礼拝、伝道週間特別礼拝

3) 修養会

J 1 7月8日(水)～10日(金) 1泊2日 2班 会場 VIP アルパインローズ・ビレッジ
主題 「What a wonderful World このすばらしき世界」

講師 及川信先生(日本キリスト教団中渋谷教会牧師)

J 2 7月8日(水)～10日(金) 1泊2日 2班 会場 舞子ビラ神戸
主題 「心で聴く」

講師 谷本仰先生(日本バプテスト連盟南小倉教会牧師)

J 3 9月4日(金) 会場 学内OCCホール

主題 「私もまわりも大切に～あるかへんけど歩いてる～」

講師 牧ローニ先生(聖公会 聖ヨハネ教会員)

S 1 7月8日(水)～10日(金) 1泊2日 2班 会場 神戸市立フルーツフラワーパーク
主題 「神様から、愛するあなたへのメッセージ」

講師 高原剛一郎先生(東住吉キリスト教会伝道者)

S 2 11月14日(金) 会場 学内ホールチャペル

主題 「聖書の面白さ、奥深さ、再発見！」

講師 高多 新先生(日本キリスト教団神戸神愛教会牧師)

S 3 7月8日(水)～10日(金) 1泊2日 2班 会場 ユニトピアささやま
主題 「大丈夫！神が一緒！」

講師 波多康先生(聖書キリスト教会協力牧師)

KIKI さん（ゴスペルシンガー）

4) 伝道週間 9月28日（月）～10月4日（日）

主題講演講師 岩井基雄先生

（日本福音自由教会協議会清瀬福音自由教会牧師、玉川聖学院中部聖書科講師）

5) 公開クリスマス 12月19日（土） 3回実施

6) 中学校、高等学校 宗教行事感想文集「えのき」発刊

2. 建学の精神の再認識と再構築

125周年を迎えるに当たって、本校の歴史を振り返りつつ、建学の精神を再認識し、教育理念の再構築に努める。そのため125周年の記念式典、記念行事などを有効に利用する。

1) 赤羽桂子さんの講演会 7月22日（水） 会場 ヘールチャペル（自由参加）

題「国際医療の援助～私の経験～」

2) 卒業生による講演会とパネルディスカッション 9月26日（土） 会場 ヘールチャペル

題「大阪女学院からの飛躍」大阪女学院からの飛躍

高橋美香さん（新潟越冬の会事務局）、加茂わかなさん（NHK 番組ディレクター）、
山内京子さん（ニューヨーク・コーネル病院救命救急科医師）

3) 大阪女学院創立 125 周年記念式典（中学高校生 午前の部） 会場 大阪国際会議場

II. 教育の内容

1. 学力向上の取り組み

本校における一貫カリキュラムの成果と課題についての検討を更に進め、各教科の学力の向上と定着を図るための検討を進める。

1) 本校における学力の充実を図るために、学力検討委員会（委員 10 名）を年 8 回開催し、具体的提案を行った。

① 中学高校英語のカリキュラムを一部変更し、よりきめ細やかな学習ができるようにした。新指導要領 完全実施に向け、英語科については教科主任以外に、2010 年度より 3 年間、カリキュラム、指導法等について考えていく研究担当者を一人置くこととした。

② 2010 年度より 中学全校で土曜日 12:00～12:40 を 自主学習プログラムを行う。

毎土曜日に 3 限後、担任・副担任の監督で 40 分間、生徒全員が自学自習を行うこととした。

③ 土曜講座について

2009 年度からの 6 日制に伴い、土曜講座は午後に行うこととした。高校 1 年生に英語、数学を実施してきた。

④ 水曜講座について

水曜講座は高校 3 年生普通科文系・英語科 I 型の希望者対象で 5.6 限に古典文法を実施した。

2) 国際理解教育

昨年度までの本校の国際交流に関する委員会は、「帰国子女委員会」「留学委員会」「国際交流推進委員会」「姉妹校提携委員会」「海外夏期研修旅行委員会」の 5 つに分かれていて、それぞれが独自の働きをしてきた。この状態を一年かけて見直し、連携を図る新委員会組織を創ろうと 12 回会議を開いて検討を重ねた。その結果、2010 年度からは名称も「国際教育委員会」として新しく出発し、「派遣サポート担当」「受け入れサポート」「カリフォルニア交流事業」

「大学留学サポート担当」「海外研修担当」の5つの事業の内容を明確にして、国際交流を深めていきたいと考えている。

①留学生の受け入れ

YFUからの年間留学生 4月～12月まで Joelle Dahm（ルクセンブルク）（S2A）

②海外への留学生としての派遣

YFUで高校3年生がアメリカへ1名、高校1年生が韓国へ1名

AFSで高校2年生がアメリカへ1名、スイスへ1名、高校1年生がスイスへ1名

EFで高校2年生がアメリカへ1名 が留学した。

③オーストラリア姉妹校留学

今年度はオーストラリアの姉妹校から日本への留学希望者がなかったため、交換留学は行わないことになった。今後の交換留学の進め方については、125周年記念式典のため来日された校長と話し合ったが、継続して話し合っていくことになった。

④海外夏期研修の実施

今年度は新型インフルエンザの影響を心配したが、何とか無事に終了することができた。

アメリカ ボストン 高校1年生 36名（7月24日～8月14日）

アメリカ モントレー 高校1年生 29名（7月24日～8月12日）

ニュージーランド ハミルトン 高校1年生 34名（7月25日～8月15日）

2. 改変した学校行事の円滑な実施

6年間一貫教育の中で、より教育的効果を高める観点から数年間に亘って行事全体の精査、運用の見直しを行ってきたが、今年度は6日制実施に伴い、様々な学校行事が円滑に運営され、教育的な効果がもたらされるよう図る。

今年度より週6日制を実施した。定期テスト終了後の行事が実施授業時間確保、クラブ活動の充実などの成果があったが、定期試験時の土曜日の公式試合による試合出場の問題、インフルエンザによる休校に対する休日の扱いの問題などがあり、実施後も行事の調整を行った。

3. 生徒の人権意識を深める取り組み

解放教育（人権教育）については、「私たちの人権感覚を問い直そう——一人ひとりを大切にしよう——という教育目標の下で、一人ひとりが大切にされる解放教育を目指す。また、世界の人権状況と人権獲得の歴史を学び、守り、発展させていく意味を考えさせ、各学年の成長過程に応じて、生徒自らの人権意識を深める取り組みをテーマを決めて行う。またインターネットの扱いやいじめの問題に対する生徒の問題意識を更に深める。

1) 「私たちの人権感覚を問い直そう——一人ひとりを大切にしよう——という教育目標の下で、各学年別年間目標をたて、実施した。

○学年毎のテーマ

中学1年「HARMONY～私の『音』、あなたの『音』～」

中学2年「戦争と平和について考えよう」

中学3年「戦争と平和・障がい者と人権・被差別部落とは」

高校1年「民族的マイノリティーについての学習を通じて人権を尊重する心を養う」

高校2年「多民族・他地域との共生」

高校3年「共に生きるために～今、私たちに出来ること」

○中学平和を考える日

中学3年生修学旅行平和学習感想文代表者の発表と

反戦平和に関する映画「母べえ」鑑賞

4. 生徒の生活全般に対する指導

生活指導については、中学・高校それぞれの発達段階を考慮しつつ、一貫した原則の下に生活全般について指導を行い、現代社会が生じさせる個々の問題に対し具体的な対応をしていく。特に基本的な生活習慣・社会のルールを身に付けるよう指導する。時間、物の管理、服装や身だしなみ、礼儀、公共のマナーや美化などについて、周りを配慮して行動できるように指導する。

1) 遅刻指導をはじめ、身だしなみの指導、移動教室の施錠確認や授業時間中の巡回、放課後の教室の整理整頓の見回り等、きめ細かな学年の指導により、学校生活は落ち着いている。

一部の生徒の登下校時のマナーの悪さに対して一般の方から苦情が来ることがあるが、その都度全体に注意をしている。公共のマナー、ルールを自らの意志で守り、周囲に配慮をもって生活していけるよう指導を続けたい。

Ⅲ. 教育の実施体制

1. 生徒の安定的な人数確保のための取り組み

今後とも長期的に続く少子化への対応、大阪府の公立学校改革への対応を検討する。
また、中学入学者の人数確保を安定的に行っていくため、中学の入試結果の集計や分析を更に充実させ、次年度の入学予定者の把握に役立たせると共に、受験生の保護者の学校理解を深める。高校入学者の増加を計るため、公立中学校の訪問等具体的な方策を継続する

1) 2009年度在籍者(2009年4月1日現在)

	1年	2年	3年	合計			1年	2年	3年	合計
	230	261	218	709		普通科	233	215	186	634
						英語科	80	75	85	240
						休・留学	3	3	1	7
	中学・高校合計			1590			316	293	272	881

2) 2009年度中学入試報告

①兵庫の私学、大阪府内の競合校が本校の入試日と重なり、短期集中の傾向が昨年よりさらに強まった。その影響は、本校の受験者の動向にも強く現れた。

②本校は前期1月17日、後期1月19日として実施。

(3)入学手続後の辞退について

毎年入学手続後の辞退者数の予想は、困難を極めるが、今年度は、32名の入学辞退者が出た。

(4)結果として、中学1年生は230名の入学者となり、6クラス体制を厳守することができた。現在の中学2年生はすでに7クラス体制であり、旧リーディングルームは特別教室として使用できるようになったが、旧多目的室はHR教室として引き続き、使用することとなった。

募集人数		210名			
		前期1/18(日)		後期1/20(火)	
		A方式(専)	B方式(併)	併願	
出願者数		461名	138名	303名	902名
欠席者数		16名	4名	220名	240名
受験者数		445名	134名	83名	662名
合格者数		(1.29倍)	(1.09倍)	(2.08倍)	実質倍率
	当初判定	344名	123名	40名	
	追加				
	計	344名	123名	40名	
手続前辞退者					
	当初判定	116名	99名	35名	
	追加				
	計	116名	99名	35名	
入学手続者		228名	24名	5名	
手続後辞退者					
	当初判定	22名	10名	0名	
	追加				
	計	22名	10名	0名	
入学予定者		206名	14名	5名	
帰国生入試		5名			
入学予定者		230名			

3) 2009年度高校入試報告

2010年度高校入試は、民主党政権のマニフェストに盛り込まれた「高校授業料無償化」の問題が、生徒募集にどのように影響するかが気になりつつ実施された。政府とは別に橋下大阪府知事もこの問題に関しては独自の姿勢を示したが、結論が出ないままの私立高校入試に突入となった。

入試の結果は以下の表のようになった。

	科・コース	内部進学者	高校入試募集人数	高校入試受験者	高校入試合格者		高校入試入学者
特別入試	普通科（文系）	1 5 8	約6 0名	第一志望専願 1 5	専願	2 2	3 1
				第一志望併願 2 7	併願	4 6	
	普通科（理系）	3 9		第一志望専願 4	専願	2	4
				第一志望併願 2 9	併願	2 0	
	英語科	6 4		第一志望専願 1 7	専願	1 2	1 6
				第一志望併願 6 4	併願	5 4	
	普通科（文系）				第一志望専願 1	専願	1
	普通科（理系）			第一志望専願 1	専願	1	1
	英語科						
合 計	2 6 1		158		158	53	

受験者数は、昨年度より 13.6%の増加であった。内訳は専願で6名、併願で11名が増加した。

本校は外部募集60名に対して前年比8%増の53名が入学した。入試対策室及び入試委員の地道な努力が、受験生の増加に繋がってきていると思う。

私立学校に取っては大変厳しい時代を迎えているが、本校の大切にしている教育方針を受験生と保護者に理解してもらうために、さらに努力していきたい。

2010年度の入学試験は新型インフルエンザの影響が大変心配されたが、感染をした受験生はいなかった。追試験の準備もしたが、受験する者もなく無事終了できたことは幸いだった。

4) 編転入試験

編転入試験により中学1年生6名、中学2年生1名、高校1年生3名の入学を認めた。

5) 募集対策

①中学関係

第1回オープンキャンパス	5月 2日(土)	
第2回オープンキャンパス	6月13日(土)	
第1回中学入試説明会	10月 3日(土)	
第2回中学入試説明会	11月14日(土)	
保護者対象入試説明会	12月 5日(土)	
関西日曜教室	5月23日(土)	新型インフルエンザによる休校のため中止

②高校関係

オープンキャンパス

第1回中学入試説明会	9月12日(土)
第2回中学入試説明会	11月 7日(土)
入試個別相談会	12月 5日(土)
教師対象高校入試説明会	10月19日(月)

③その他

塾対象説明会(中高合同)チャペルにて 7月14日(火)

塾主催の説明会への積極的参加

私学展参加 8月15日(土)～8月16日(日) OMM ビル

大阪私立女子中学フェア参加 6月21日(日) 御堂会館

2. 中学・高等学校図書館教育の実施体制

中学校・高等学校の教育・研究・学習を支援するために、資料・情報を収集し、整理、保管、提供を行う。

①蔵書の充実

- ・新「学習指導要領」実施にともなう資料の収集。
- ・学力低下や様々な背景や多様な要望をもつ生徒を教育するために必要な資料の収集。
- ・多彩な学校行事（遠足、修学旅行、文化祭など）に利用できる資料の収集。
- ・生徒の学習に役立つ資料や生徒の知的好奇心をかきたてる資料の収集。

②利用教育

学習や個人的にインターネットを利用する時の著作権や注意点を分かりやすいようにホームページや印刷物で紹介。

③各委員会、例えば解放教育委員会と連携して年間計画に従い教材の資料収集の援助、資料展示、資料の探し方を紹介する。

1) 図書館の資料を利用する授業

高校1年生「現代文演習」の授業でディベートのため、また、高校2年生英語科「異文化理解」で情報収集のため図書館で授業をおこなった。

IV. 生徒支援

1. 生徒の自己実現を促す進路指導

進路指導については、在校生が進路選択をするに当たり、自分の将来を設計し、その実現に向けて少しでも近づけるように、指導、助言をする。

- ①年間指導計画に基づいて、必要な情報を生徒・保護者に提供し、生徒の進路意識、学習に対するモチベーションの向上を図る。
- ②実力テスト、スタディーサポート、学力推移調査等により、生徒の学力や学習・生活実態を調査、分析し、進路委員会、学力検討委員会が職員会議等に生徒の学力向上の為の方策の提言を続けていく。またこれらの資料を活用して、生徒に対してそれぞれの目標に向け努力ができるよう行っている面談を更に充実させる。
- ③高大連携を促進する。
- ④資料の整備や留学コーナーの設置、進路相談等、進路室利用の活性化を図る。
- ⑤高校3年生・既卒生の進路状況を把握し、各種資料を作成する。

1) 各学年の進路指導実施状況

- | | |
|------|--|
| 中学2年 | 生徒、保護者進路説明会(9月) |
| | 生徒、保護者進路説明会(3月) |
| 中学3年 | 生徒対象普通科文系・英語科説明会、普通科理系説明会(4月) |
| 高校1年 | 第1回 進路説明会(進路選択と教科選択)(6月) |
| | 第2回 進路ホームルーム(オープンキャンパス参加準備)(6月) |
| | 第3回 進路ホームルーム(オープンキャンパス発表)(9月) |
| | 第4回 生徒進路説明会(進路選択と学習)(10月) |
| | 第5回 生徒進路説明会(高校3年の進路状況)(2月) |
| 高校2年 | 第1回 生徒、保護者進路説明会(卒業生の進路状況と教科選択)(6月) |
| | 第2回 生徒進路説明会(模試データーの見方と目標と教科選択)(10月) |
| | 第3回 生徒進路説明会(高校3年の進路状況)(3月) |
| 高校3年 | 第1回 進路説明会(調査書について)(4月) |
| | 第2回 生徒、保護者進路説明会(卒業生の進路状況と進路全般説明)(4月) |
| | 第3回 生徒進路説明会(センター試験、AO入試、自己推薦入試説明)(6月) |
| | 第4回 生徒進路説明会(指定校推薦入試、調査書請求について説明)(8月始業式後) |
| | 第5回 進路ホームルーム(公募制推薦・センター入試出願説明)(9月) |
| | 第6回 生徒進路説明会(センター試験自己採点と小論文説明)(1月) |

2) 実力テスト関係

- | | |
|------|------------------------------|
| 中学1年 | 学力・推移調査(4月)(12月)(3月中学2年生用) |
| 中学2年 | 学力推移調査(12月)(3月中学3年生用) |
| 中学3年 | 学内実力テスト(4月)(11月)、学力推移調査(11月) |
| 高校1年 | スタディーサポート(4月)(9月)(3月) |
| | 実力テスト(11月)(1月) |
| | 小論文ガイダンス(11月) 小論文テスト(1月) |
| 高校2年 | スタディーサポート4月)(3月) |
| | 実力テスト(7月)(10月)(1月) |

小論文テスト（９月）（１月）

高校３年 実力テスト（５月）（６月）（９月）（１０月２回）

３）普通科文系、普通科理系においてそれぞれ高大連携を促進した。

文系 神戸女学院大学（人間科学部）、関西学院大学（商学部）、関西大学（法学部）、
同志社女子大(学芸楽部 情報メディア学科)

理系 大阪大学（理学部生物学科）、大阪府立大学（農学部）、理系セミナー ３月

４）資料の整備、進路室利用の活性化に務めた。

５）高校３年生・既卒生の進路状況を把握し、各種資料を作成した。

・進路先冊子・卒業生からの進路アドバイス冊子配布

6) 進路結果の概要は以下の通りである。

《進路結果の概要》

2010年卒業生 進路状況

(最終進路)

	進 学					就職	その他	合 計
	大 学	短 大	専門学校	留 学	予備校	就職	その他	合 計
人数	220	15	4	2	31	1	1	274
%	80.3	5.5	1.4	0.7	11.3	0.4	0.4	100
%	85.8							
%	87.2							
%	87.9							
%	99.2							

	大学	短大	その他	合計
普通科	151 (78.7%)	11 (5.7%)	30 (15.6%)	192
英語科	69 (84.1%)	4 (49%)	9 (110%)	82

2010年度大阪女学院大学・短大合格者数

大阪女学院大学・短期大学 入試結果

2010年卒の内訳

入試方法	受験者数		合格者数	
	大学	短大	大学	短大
学内（専願）	3	6	3	6
選抜（併願）	4	6	4	6
一般	2	0	2	0
Academic Interview/モチベーション ステップアップ	0	0	0	0
合計	9	12	9	12

2. 心身の健康と安全を守るための生活指導と生徒支援

- ①自分自身の心身を健康に保つ方法を身につけるように指導する。そのために保健室・教育相談室（学校カウンセラー）と連携し、生徒・保護者をバックアップする。
- ②授業・学級活動・生徒会活動・その他の活動が安全かつ充実したものになるように警備・巡回に努める。
- ③学校外での生徒の事故やトラブル、迷惑行為等の窓口となり対応する。
- ④また、いわゆる広汎性発達障害生徒への学内における特別支援教育のあり方を検討し具体的な方策を検討する。

1) 自分自身の心身の健康を保つ（保健室・教育相談室との連携）

- ・不登校・不登校傾向生徒をはじめ、学校生活の様々な場面で困難を覚える生徒がいる中、学年と保健室、教育相談室とが連携をとりながら対応にあたってきた。発達障がいのある生徒のための支援が必要である。そのために支援教育委員会、サポートルームを 2010 年度からスタートするべく準備を行った。外部アドバイザー、支援教育指導員を求め、支援教育要領、サポートルーム施設（図書館のグループ閲覧室を時間を切って使わせていただく）、整備、ルール作り、支援教育委員会の働きについては他校見学、全教職員向け講演会を 2008 年度末より 3 回にわたって行い、中高教職員全体で支援教育を進めていく体制を作りつつある。
- ・インターネット・メールがらみのトラブルを防止し、保護者の責任を明確にして、学校との連携を図るため、ネット利用のマナーや注意事項をまとめた冊子を今年も中学・高校から入学の新 1 年生に配布した。
- ・携帯電話について、中学においては昨年度より保護者の申し出による「許可制」とし、生徒自らが責任をもって管理できるように指導することとした。高校生は今まで通り、許可制はとらず、自己管理を徹底し、授業中の利用などの違反者に対しては携帯を預かり、保護者に連絡し返却する方法をとっている。

2) 生活指導講演会実施実施状況

4 月 9 日（木） 中学・高校 1 年生対象 鉄道警察隊による「安全教室」

4 月 13 日（月） 支援教育に関する教職員研修会その 2 「発達障がいの支援～概論と実践」

講師 谷 均史先生 NPO 法人特別ネットワーク 副理事長

2 月 24 日（水） 支援教育に関する教職員研修会その 3

講師 木下忠恭先生 和歌山市教育相談センター長／臨床心理士
来年度より本校支援教育アドバイザー

3 月 12 日（金） 中学 1 年生対象 松原高校 「るるくめいと」による性教育講演

3 月 16 日（火） 高校 2 年生各 HR にて「薬物乱用防止教室」

大阪府健康医療部薬務課麻薬独劇物グループ作成の冊子を使って

3. 中学・高校としての図書館機能の充実

中学校・高等学校の教育・研究・学習を支援するために、資料・情報を収集し、整理、保管、提供を行う。

1) 文化祭で高校 2 年生が 2 つの展示をおこなった。

図書委員有志と文芸部と科学部有志との協同でデジタル絵本を3冊作成し、ナレーションをつけて、来場者へみせた。同時に、高1、高2のクラスで「好きな絵本」のアンケートをとり、結果を展示した。

V. 改革・改善

1. 組織の再構築と運営方法の見直しの継続

大阪女学院における中高一貫教育の教育内容を絶えず深化させていくために教職員の意識の共有化を行いつつ、組織の再構築と運営方法の見直しを続ける。また新しく位置づけようとしているそれぞれの職務に対して、その責任範囲についての理解が深められ、定着するまで研修会を行い、新体制への移行を円滑に実施する。

1) 組織の再構築と運営方法の見直しについて活発な議論が行われ、研修も行った。中学高校教職員の代表と中学高校の校長（理事）、教頭、事務長による校長・教頭・部長選挙規定改正委員会（中高教員組織新委員会）を3回開催した。

2. 6日制の円滑な運用と効果の確認

2009年度から1校時50分の週6日制が実施されるが、その円滑な実施を図り、授業の実施状況、中学生のクラブ参加状況など、6日制による変化を分析し、その効果が顕著になるよう導く。

1) 今年度より週6日制、50分授業を実施した。定期テスト終了後の行事が実施授業時間確保、クラブ活動の充実などの成果があったが、実施後も行事の調整が必要となった。また、教職員の労働加重に関する問題、生徒の授業時間確保など課題も出てきた。

3. 学校評価「自己評価」の実施をうけて

2007年6月の学校教育法の改正を受け、2008年度には学校評価の「自己評価」実施が義務づけられ、学校目標についての「自己評価」を行った。その結果を分析し、明らかになった問題点についての改善を進めていく。

また順次「学校関係者評価」「第三者評価」を実施する体制を整備していく。

1) 自己評価について

基礎になる詳細な生徒アンケートは3年に1度とし、2009年度は前年度と学年推移をみたい項目、新たに質問したいものに限って実施した。

2) 学校関係者評価について

2008年度に実施された学校評価(自己評価)を受け、以下のような手順で学校関係者評価委員会を組織し、上記各項目に沿って学校関係者評価を行った。

①学校関係者評価委員会の発足 計3回実施

学識経験者1名(委員長)、 本校保護者代表3名、 本校同窓会代表2名 計6名

陪席中学校校長、高等学校校長、中学校教頭、高等学校教頭、

②学校関係者評価委員会委員長

学識経験者有澤慎一氏(日本キリスト教団八尾東教会牧師)(3)学校関係者評価委員会の開催

3) 委員会内容

①学校視察始業から終業までの学校生活について視察

②学校関係者評価委員会

2008年度「自己評価」を受けて協議を行い、学校関係者評価を作成

4. 生徒の学力向上について

上記「自己評価」の中で実施した各教員についての授業評価に基づき、各教科の授業力の向上を図る。また2007年度から実施している学力推移調査(中学)、スタディーサポート(高校)の結果に基づいた個人面接や分析説明会による効果を検証し、生徒のモチベーションを図る方策を更に検討する。

1) 昨年同様、すべての授業、全教員についての授業アンケートを実施、各教員には個人結果を、各教科には教科のまとめを配布した。

教員に対しては学力推移調査(中学)、スタディーサポート(高校)の分析会をそれぞれ2回ずつ行った。学力推移調査(中学)、スタディーサポート(高校)をもとにして個人面談を4月27日(月)～5月2日(土)行った。

5. 2009年度からの新指導要領移行措置に対応する教育課程の見直しについて

中学校においては、2009年度から新指導要領移行措置が開始され、2012年から完全実施に移るが、それに伴う教育課程の見直しを行う。

1) 2012年からの完全実施に向け、各教科において、議論めている。

6. 2009年度から開始される教員免許更新制の受講支援について

2007年6月の教育職員免許法の成立により、2009年4月1日より教員免許更新制が導入されることになった。該当教員が円滑に受講ができるよう、支援体制を準備する。

1) 教職員に教員免許更新制の受講のパンフレットの閲覧ができるようにした。又充実した研修ができるように専任教員への授業料受講料の支援を行った。

7. 教職員の危機管理意識の向上

新型インフルエンザ対策を含め、生徒が学校生活を「安全・安心」して過ごすことができるよう、設備の充実と教職員の研修を行い、教職員の危機管理意識を向上させる。

1) インフルエンザ対策のため職員会議、朝礼等での連絡を密にした。また、緊急の一斉配信による通信方法として有効なFairCastを教職員全員に対して配信可能なるように徹底した。

8. 教職員の人権意識の向上

教職員の人権意識を更に深め、授業やクラブ活動での指導を問わず、日常における生徒との関わりの中で、生徒の人権に配慮した指導が十分出来るよう啓発と研修を行う。

1) 今年度は人権意識向上のため、次のような教職員研修を行った。

①「現在進行形の戦争&イラクアフガンからのレポート」

西谷文和さん(イラクの子どもを救う会代表)

② 夏期研修会報告(生活指導と共に)

③「世界の平和・核の現状—私たちに何ができるか」

安斎育郎さん

(立命館大学国際関係学部教授、同大学国際平和ミュージアム名誉館長)

④ 教職員フィールドワーク 「おおくぼまちづくり館」と洞村跡地を訪ねて

9. 保護者との信頼関係を強める取り組み

保護者からのクレームへの対応の方法や保護者との関係をこじれさせないためのコミュニケーションのありかたを研鑽し、保護者と信頼関係をより一層深める。

1) 各クラス個人懇談、クラス懇談を実施、中学においては家庭訪問実施をすすめることで保護者と信頼関係をいっそう深めた。

10. 教職員と図書館の連携方法を考える。

1) 図書館グループ閲覧室を2010年度から中学・高校の「サポートルーム」と共同で利用することとなった。利用方法などを中学、高校校長、教頭、支援教育指導員と話し合った。

2009年度大阪女学院中学校・高等学校事業報告サマリー

2010年5月10日

I. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

創立125周年を迎え、記念行事を行うことによって学校の歴史を振り返り、学校の存立意義を教職員、生徒、保護者で確かめることができた。125周年を記念して発表された大阪女学院のミッションステートメントは建学の精神、教育理念の再構築をすることとなった。

II. 教育の内容

- ①英語教育をさらに充実にしたものにするため中学高校の英語のカリキュラムを一部変更し、よりきめ細やかな学習ができるようにした。
- ②学力検討委員会を中心に学力を充実したものにするための話し合いが活発に行われた。それにより、2010年度より中学全校で土曜日の40分間の自主学習プログラムを実施、英語科教員の中でカリキュラム・指導方法についての研究担当者を2010年度より3年間おくことに決定した。

III. 教育の実施体制

- ①2009年度入試による入学者は230名となった。高校は専願で53名の入学者であった。
- ②今年度より入試説明会に加え入試個別相談会として入試説明会を12月5日(土)に開催した。

IV. 生徒支援

- ①発達障がい、不登校生徒など学校生活の中で支援を必要とする生徒のために、支援教育委員会、サポートルームの新設、特別指導員の配置を計画し、2010年度よりスタートさせるために準備を行った。
- ②2009年度の進路合格実績は国公立35名、関西学院大91名、関西大学48名、同志社大48名、立命館大33名であった。また、大阪女学院大学の合格者は9名、大阪女学院短期大学は17名であった。

V. 改革・改善

- ①組織の再構築と運営方法の見直しについて活発な議論が行われ、研修も行った。中学高校教職員の代表と中学高校の校長(理事)、教頭、事務長による校長・教頭・部長選挙規定改正委員会(中高教員組織新委員会)を開催した。
- ②インフルエンザ対策のため職員会議、朝礼等での連絡を密にした。また、緊急の一斉配信による通信方法として有効なFairCastを教職員全員に対して配信可能になるよう、徹底した。

以上

大阪女学院短期大学 2009 年度事業報告書

(2009 年 4 月 1 日から 2010 年 3 月 31 日まで)

学校法人大阪女学院

2010 年 5 月 26 日

I. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

大阪女学院短期大学は1968年4月に開学しました。1987年および1998年の2度にわたるカリキュラム改革を行うとともに、1998年に、社会に積極的に関わる人間の形成を教育の使命とするミッションステートメントを制定しました。現在、2011年度に導入する第3次カリキュラム改革に取り組んでいます。また、学院は、1884年にウヰルミナ女学校として創立され、2009年度に125年周年記念の年を迎えました。

ミッションステートメント

本学は、キリスト教に基づく教育共同体である。
その目指すところは、真理を探究し、自己と他者への尊厳に目覚め、
確かな知識と豊かな感受性に裏付けられた洞察力を備え、
社会に積極的に関わる人間の形成にある。

1. 新入生オリエンテーション

オリエンテーションは、大阪女学院短期大学での学習を始めるにあたり、建学の精神や教育理念、教育目的・教育目標、教育課程について一定の理解をした上で、高校までの学びから大学での学びにギアチェンジし、学生が主体的に行動できるための意識を立ち上げてスタートをきるための導入プログラムである。

オリエンテーション期間中に行うオーバーナイトオリエンテーションは、一泊二日の合宿プログラムであり、新入生同士やBig Sister(2年生奉仕者)、スタッフと、体験、期待、希望、不安などを分かち合い交流を深めるとともに、大阪女学院短期大学を自分の学びのステージとして認識していく場でもある。

1) オリエンテーションの主なプログラム 期間：2009年4月4(土)～11日(土)

- a. オリエンテーションのねらい
- b. カリキュラムについて(含 海外プログラム)
- c. キリスト教教育について
- d. 教職課程 / 編入学 / 留学について
- e. チャペルオリエンテーション
- f. 学生サポートについて(学生生活、相談システム、キャリアサポート)
- g. マネジメントスタッフの役割
- h. Learning Resource Center / Computer-Assisted Language Learning について
- i. 図書館ツアー
- J. BS(Big Sister)アワー
- k. 2分間スピーチ
- l. Placement Test
- m. 学友会より(学生自治会案内、クラブ紹介)
- n. 自宅外通学生の集い(対象者)

2) オーバーナイトオリエンテーションの主なプログラム 期間：2009年4月6日(月)～7日(火)

- セッションⅠ：「ここどう学ぶか」教養教育、英語のカリキュラム構造、学習動機的重要性
セッションⅡ：「Passport to English」-英語で楽しむプログラム
セッションⅢ：「大阪女学院の常識クイズ！」
セッションⅣ：「ビッグシスター・アワー」
セッションⅤ：「学びの自己点検」
セッションⅥ：「まとめ／1年後の自分への手紙／アンケート」

3) 2分間スピーチのテーマ(新入生が選択する)

- a. 自分への期待
- b. 大学生活の目標
- c. 学習面での目標
- d. これから私を支えるもの

この一連のオリエンテーションを通して、新入生は本学での学習の目標をまとめ、オリエンテーション最終日に、25名程度のグループの中で2分間スピーチを行い、翌日からの授業へと向う。

オリエンテーション終了時のアンケートでは、新入生136名のうち132名(回収率97.1%)の回答があり、「大学生活を送る上で必要な情報を得ることができましたか」と問いに、87.9%が「得ることが出来た」と回答し、「大阪女学院大学で有意義に学習を進めるためには何が必要だと、今、感じていますか」(準備された語群から5つまで選択できる)の問いに、回答者が選択した言葉は「復習」(62.1%)、「予習」(52.3%)、「勤勉」(49.2%)、「計画性」(42.4%)、「視野の広がり」(40.9%)、「熱意」(37.1%)、「要領」(37.1%)、「好奇心」(26.5%)、「思考力」(22.7%)、「手際の良さ」(16.7%)、「読書」(16.7%)、「勇気」(15.9%)、「情熱」(15.2%)、「愛」(14.4%)、「情報」(10.6%)、と続く。

また、「大阪女学院大学での学生生活で、自分の成長に何を今、期待しますか」(同上)の問いに、回答者が選択した言葉は「語学力」(64.4%)、「口語表現力(外国語)」(54.5%)、「思考力」(28.8%)、「文章表現法(外国語)」(22.0%)、「知識量」(21.2%)、「自己理解」(18.2%)、「他者理解」(15.2%)、「人間関係の技術」(13.6%)、「知的センス」(12.9%)と続く。

2. 導入教育科目「学ぶこと、働くこと」について

社会を形成する価値が世界的な広がりで見られ、他方では、伝統的な価値への回帰が叫ばれる現状で、青年達の間では、フリータリズムが増殖し続けている。このような社会において、大学で学ぶことの意味を問い、さらに卒業後の社会で働くことの意味を考えるのがねらいである。1年次必修の通年科目であり、導入教育として位置付けている。授業を受け考察を進めて、年度末に「大学で学ぶということ」をテーマに自らサブテーマを決めて2,400字の小論文にまとめる課題に取り組んでいる。

3. キリスト教教育

キリスト教教育は、必須科目「キリスト教学」、選択科目「キリスト教と世界」及び、礼拝、リトリート等の行事を軸としている。2009年度の卒業アンケートによると、「本学の理念が自分自身の成長に影響を与えたと思いますか。」との問いに、47.8%が「影響があった」と回答している。一方、「キリスト教関係のプログラムは、あなたの成長にどのような影響を与えましたか。」との問いには、28.0%が「影響があった」と回答しているに留まっている。

かねて、Elder 名誉教授が投げかけた「学生の自己概念に影響を与える意味で成功していると言えます。・・・いまの傾向が続けば、・・・ほとんどの学生が自分の生き方を考え、見つめ、選ぶ材料としてキリスト教のことは全くと言ってもいいほど、知らなくなるでしょう。・・・いまの時代、いまの状況の中で、いまの学生に関わり、共にキリストをどう伝えればいいのか」という言葉を、自らの課題として問いつづけなければならない。

2008年度に引き続き、今年度の礼拝に100回以上出席した学生を対象に、顕彰をおこなった。今年度の該当者は、2年生2名、1年生10名であった。

4. 人権教育

人権教育講座を10月21日(水)～11月4日(水)に開催した。これは、導入プログラム、オープニングプログラム、2日間の分科会、クロージングプログラムを5日間にわたって二年制、四年制の

1・2年生を対象に共同で行なう講座である。2009年度も14のテーマ別各分科会を開講した。

学生の受講率の向上を計るため、2009年度より導入プログラムを新たに実施し、これまで2年間で2単位を認定していたが、これを年度毎の受講で1単位を認定することとした。しかし、1・2年生を併せて、完全出席者が77名(28.4%)と、昨年度の89名(30.8%)を下回る結果となり、今後課題を残した。

5. 学期末レビュー

1学期間の学習を経た学期末に、1年生一人ひとりが自ら、当該学期間の学習の意味を振り返り、次の学習に向かう姿勢を得ることを目的として、学期末、定期試験の最終日に実施しているプログラムである。今年度より「学ぶこと、働くこと」「大学と自己形成」授業の一環として取り扱い、ほぼ全員の参加が実現した。

1) 春学期：8月14日(金) レクチャー 講師：中垣学長代行、井上教授

2) 秋学期：2月10日(水) ワークシートを使って(グループワーク)

レビューの視点(抜粋)

- a. 秋学期、これはできたと思うこと、できなかったと思うこと
- b. 新しい自分の発見はありましたか(良い面、良くない面を含めて)
- c. 自分の関わった人(友達、家族、先生 など)との出会い、またある本を読んで、ある社会的出来事を通して気づいたことで、自分が変わったと思ったことや、さらに、成長できたと思うことはありましたか。それはどのようなことでしたか。
- d. これからの自分の目標は—このようになりたいと思う自分をイメージして具体的に書いてみましょう

6. 講師オリエンテーション

1) 英語担当者ワークショップ

専任及び非常勤講師を含む総ての英語教育科目担当者全員が集い、2009年4月1日(水)にオリエンテーションを開催した。英語教育科目担当者用カレッジカタログ(授業担当マニュアル)を基に、各学科目のリエゾンより授業の概要、目的、到達目標、評価方法など授業展開及び学生指導の方針についての説明と、具体的な授業運営についての打合せを行った。

2) 講師オリエンテーション、ファカルティー・デベロップメント

特任・非常勤講師を対象に、2009年10月3日(土)に講師オリエンテーションを開催し、「高等教育をめぐる動向と大阪女学院大学・短期大学の課題について」と題したFDを行い、続いて2010年度の本学の教育展開についての説明ならびに意見交換を行った。

7. 学院創立125周年

1) 学院創立125年式典を、御来賓、学生および教職員の参加により、2009年10月8日(木)に大阪国際会議場で開催した。

2) 建学時の精神や125年にわたる生徒、教職員の足跡に関わる書誌を刊行した。

a. ウキルミナ物語 大阪女学院創立125周年記念誌

b. Twenty-Five Years in Japan 1902年、J.B.ヘール

c. LIFE IN JAPAN 1900年、E.ガードナー

d. 大阪女学院創立125周年記念行事

—生徒・学生による共同絵画— 生徒・学生からの言葉集

e. 国際共生研究所叢書1 国際社会への日本教育の新次元 今知らねばならないこと

II. 教育の内容

英語科の教育課程は、自己の確立群、語学基本群、コア基本群、コア展開群、表現・コミュニケーション群、専門職業群の各学科目群から構成されています。

教育課程の構成と各群のねらい

- 1) 自己の確立群(必修科目 12 単位): 人間一般論としてとらえるのではなく、あくまで「自己」という固有の存在に対する気づき(awareness)の獲得をめざし、新しい自己への飛躍を図る。
- 2) 語学基本群(必修科目 6 単位、履修要件科目 1 単位、選択必修科目以上 4 単位): 「言語を使う」ことを第一目標に多面的に学習する。四技能(読む、書く、聴く、話す)を、さらに綿密に構成されたプログラムで向上させ、「英語で学ぶ」ことに直結させる。
- 3) コア基本群(必修科目 15 単位): 英語「を」学ぶことと、英語「で」学ぶことを一体化させる。そのため、考えるという知的活動を活発にしなが、英語の運用能力を向上させ、興味、関心のある学問分野についてさらに深く学んでいける基礎知識や研究方法を身につける。さらに世界に開かれた視点から異文化を受容する態度をもつ。
- 4) コア展開群(必修科目 12 単位、選択必修科目 6 単位以上): 21 世紀の人類社会が直面するさまざまな問題の根底に潜む構造に目を開き、新しい世代としての可能性に目覚める。
- 5) 表現・コミュニケーション群(必修科目 3 単位): 論理的探求および分析的思考の基礎的条件である情報の解読やグローバルな広がりの中で生産される諸情報へのアクセスの方法を獲得し、またその結果の管理方法について学ぶ。
- 6) 専門職業群: 21 世紀を迎え、社会のグローバル化が進むなか、世界に通じるビジネスの担い手としての仕事を実現できる基本的能力を形成する。

1. カリキュラム改革

2011 年度入学生から導入する改訂カリキュラムの検討を進めている。改訂の主旨は、以下のとおりである。

- 1) 建学の精神・教育理念に基づいた「養成する人材像」を明確にした「短期大学士課程教育」を構築する
- 2) 教育課程の体系を「人材養成」へのロードマップとして明確にする
- 3) Learning outcomes「学生は何が出来るようになったか」を明確にする
- 4) 国際教養に関するコンテンツをベースとし、読む、聴く、書く、話すの四技能を統合した、教養教育と英語教育を組み合わせる教授法は継承しつつ、新たな教育方法を開発する
- 5) キャリア形成との連関による資格取得科目を設定する

2. 学生の積極的な参加による授業展開を実現する少人数クラス編成

2009 年度の開講科目数は、155 科目であり、開講クラス数の総数は下表のとおり 479 クラスである。内 30 人以下で実施されているクラスは 423 クラス(88.3%)、20 人以下のクラスは 262 クラス(54.7%)である。

なお、100 名以上のクラスは 1 学年全員で受講する必修科目であり、その授業展開はグループ別学習や個人面談を組入れた工夫をしている。

受講者数	クラス数
1～10 名	125
11～20 名	137
21～30 名	161
31～40 名	40
41～50 名	10

51～60 名	3
61～70 名	1
71～80 名	0
81～90 名	0
100 名以上	2
計	479

四年制との共通科目は、四年制受講者数を含む

3. 英語を使用言語とした教育課程

語学基本群 11 単位、コア基本群 15 単位およびコア展開群必修科目 12 単位の計 38 単位(卒業要件の 61.3%)の授業は、英語を使用言語とした学習を行っている。

4. 海外プログラム

2 月下旬から約 3 週間の期間で実施した異文化間リサーチ演習(ニュージーランド)には 17 名の学生が参加した。また、2008 年度は応募者数が定員に達せず実施できなかった「地域研究-ハンガラデッシュ」は、2009 年度には 7 名の学生が応募し、2 年ぶりにチャントラゴーナ・クリスチャン・ホスピタルでの体験学習を実施した。

また、台湾 Yuan Ze 大学と合同で実施する Intensive English Program を、今年は大阪で開催し、Yuan Ze 大学から 20 名、本学から 20 名の学生が参加し、英語によるコミュニケーションを通じて、交流を深めた。

5. 履修指導と関係規程の整備

2009 年度末、2 年間で卒業要件単位を修得できず留年が決定した学生は 42 名で、決して少数とはいえない状況である。この状況を踏まえ、再試験対象者や評価が Incomplete(保留)^{注1}となった学生を対象に教務面談をおこなうなど、学習サポートの充実を計った。

また、今年度からアドバイザー制度を導入し、新入生を対象に学習への取組だけでなく学生生活全般における支援を実施した。アドバイザーアワーへの参加率の低下など、制度を定着させるための課題を残すが、学生一人ひとりとコミュニケーションをとりつつ、今後も支援態勢を整備する。

注1：春学期と秋学期に継続して履修し、春・秋両クラスでの学習の継続性を前提としている授業科目において、春学期クラスの評価が 60 点に満たない場合、秋学期クラスの学習成果をもって春学期の成績を再評価する制度

III. 教育の実施体制

1. 教員組織

2009 年度の教員組織は以下のとおりである。(2009 年度秋学期)

教授	6 名 (2 名)	
准教授	4 名 (2 名)	
専任講師	3 名 (1 名)	
兼任講師	127 名 (24 名)	()内は外国人教員

2. 教育組織

教育組織は四年制と統一した体制をとり、Academic Coordinator の下、Liaison, Team Leader が各群・科目・クラス間の授業展開、学生指導、成績評価などの調整をおこない、教育の質の維持・向上を図っている。

1) Academic Coordinator	中垣
2) Liaison	
a. 1 年次英語必修科目	
Core Studies I	Johnston
Core Studies II	稲田
Core Studies III	verity
Phonetics (Coordinator)	米田
Grammar	寺
b. 2 年次英語必修科目	
Topic Studies I・II	Swenson・加藤
Topic Studies III	Fujimoto
c. 語学基本群	
Computer Assisted Composition	Johnston
Computer Assisted Speed Reading	稲田
Public Speaking	Verity
Debate	Swenson
Listening for Professional Purposes	Verity
Vocabulary through Reading	稲田
Oral Interpretation (Coordinator)	米田
Grammar Essential	寺
English Essential	Verity
English Strategies	加藤

3) Team Leader

a1	Cline
b1	Verity
c1	中垣
c2	肴倉
d1	Fujimoto
d2	Johnston

3. 新図書館(仮称)建築計画

新図書館建築にむけて学院に建築委員会を設置し、設計施行業者を決定するなど計画を作業を進めた。

4. CALL 施設・設備の更新

CALL 関係施設は2010年3月に機器の全面更新を行い、短期大学エリアについて405/406教室および情報検索スペースに、基本ソフト Windows 7 と Office 2007 を搭載した端末 84 台を設置した。

IV. 教育目標の達成度と教育の効果

1. 授業の実施と学生の参加状況

2009 年度の開講科目・クラスの開講予定回数に対して、実際の実施回数は 96.5%であり、昨年度(96.8%)とほぼ同等であった。

全学生の、全授業への出席率の平均は 83.8%であり、2 年連続して 80%台前半に留まっている。

これは、特に大阪を中心とした近畿圏において厳しい雇用情勢が続く中で、就職活動に時間を要する 2 年生の出席率が 77.7-78.3%の範囲に留まっていることによる。

1 年生は 88.3%と、2008 年度比 0.9 ポイントと、従来とほぼ同水準で推移している。

2. 単位修得および卒業等の状況

2008 年度入学者 146 名の所定年次における卒業有資格者は 104 名(対入学者数 71.2%)、退学者数は 12 名(同 8.2%)、除籍は 2 名(同 1.4%)、卒業延期者数は 28 名(同 19.2%)である。なお、2009 年度は全国的な経済状況の悪化、近畿圏・大阪府下における雇用環境の悪化の中、就職活動を継続して行うことを希望する卒業有資格者に対する「卒業保留」の制度を設け、20 名(同 13.7%)がその制度を利用して在学している。卒業生 84 名(同 57.3%)の修得単位数平均は 68.0 単位であった。

退学 12 名の事由を見ると、就学意欲の低下 1 名、進路変更 3 名、経済的困窮 3 名、身体疾患 3 名、心身耗弱 1 名、結婚 1 名となっている。除籍の事由は、学費未納 1 名、音信不通 1 名である。

3. 学生の評価から見た教育成果

2009 年度末に実施した卒業生アンケートにおいて、「大学は学生の能力や個性を活かす機会を与えているか」との設問に対し、回答者 136 名の内、75.0%が「はい」と回答している。

教養教育と英語教育を統合した英語教育科目英語展開群において、2009 年度末に実施したアンケートにおいて、1 年生への「テーマについての関心や知識が広がったか」との設問に対し、回答者 115 名の内、64.6%が「広がった」と回答している。テーマ別に見ると、「平和の追求」67.0%、「科学と宗教」58.3%、「現代と人権」70.0%、「生命の危機」63.5%であり、「科学と宗教」というテーマが学生にとって十分な理解が伴っていないことが読み取れ、教材や授業展開に工夫が必要であることを示している。一方、日本語で行う集中授業「人権教育講座」を実施する時期をリンクさせている「現代の人権」での数値が最も高いことは、背景知識の導入や学習動機の立ち上がり、英語教育科目英語展開群の学習成果に影響していることを示している。英語運用能力については、読む力、話す力、書く力、聴く力の向上について、それぞれ 70.0%、48.7%、62.6%、59.1%の学生が「向上した」と回答している。話す力の向上にはまだ満足できていないことが分かる。2 年生に同様の設問をすると、216 名の回答の内、読む力、話す力、書く力、聴く力の向上について、それぞれ 85.2%、70.4%、88.9%、75.5%の学生が「向上した」と答えている。

同じく、2 年生への「現在の世界の事情についての知識が増した」「同 関心が増した」との設問に対し、回答者 103 名の内、それぞれ 98.1%、99.0%が「そう思う」と回答している。

2009 年度に実施した人権教育講座において実施したアンケートでは、参加登録者(二年制・四年制)365 名のうち 276 名(75.6%)が回答し、導入プログラムについて 67.0%、分科会について 93.1%が、「自分にとって意味があった」と答えている。

2009 年度末に実施した卒業生アンケートにおいて、「学生はリーダーシップ養成の機会に恵まれている」との設問に対し、回答者 136 名の内、75.0%が「はい」と回答している。また同アンケートで「理念に近いキーワード」を問うたところ、「自立」「努力」「共生」「学び」といったキーワードが、寄せられた回答数 55 件中 36 件あり、本学での学習や体験の中で意識されていることが判る。

4. 英語運用能力の伸び

2009 年度卒業生が卒業前に到達した平均点は、455 点であった。全体の英語運用能力が入学時の平均 366 点から 89 ポイントの伸びである。「TOEIC テスト DATA&ANALYSIS2008」(財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会)のデータと比較すると、大学 2 年生の平均スコア 431 点はクリアし、日常生活の上で英語を使用(1%~100%)する受験生の平均スコア 445 点を 10 ポイント上回る。また新入社員受験者の平均スコア 456 点とほぼ同等のスコアである。

学内で比較すると、前年度より到達点は 23 ポイント下降しているが、伸びは 13 ポイント向上している。

TOEIC 等の学外のテストを英語運用力の計測に利用することは、学習成果を一般社会のデータと比較できる反面、本学が進めるコンテンツベースの教授法による英語教育の学習成果全体を測定可能かどうかという懸念や、学生の英語コミュニケーション能力獲得の実感との差異があり、本学独自の新たな測定方法の開発を進めている。

5. 図書館の利用から見た教育成果

学生の学習姿勢の傾向を示す指標のひとつとして、図書館での館外貸出冊数の 1 人あたりの年間平均を見ると、2009 年度は 31 冊であり、これを日本図書館協会発行の「図書館年鑑 2009」による、国立大 9.4 冊、公立大 13.9 冊、私立大 7.4 冊、短大 4.8 冊と比較すると、本学学生の学習努力を一定示していると考えられる。しかし、従来の平均 32-42 冊を下回る結果となった。

6. 学外コンテストへの参加と受賞

1) 第 43 回大阪市姉妹都市英語スピーチコンテスト

2009 年 9 月 27 日(日)に大阪国際交流センターで行なわれた、第 43 回大阪市姉妹都市英語スピーチコンテストに、1 年生の佐々井彩さんが出場し、大阪・シカゴ協会会長賞を受賞した。

2) 第 53 回近畿・大阪私立短期大学英語弁論大会

2009 年 12 月 5 日(土)に京都外国語短期大学で行なわれた、第 53 回近畿・大阪私立短期大学英語弁論大会に、本学より 2 名の学生が出場し、2 年生の中村桃香さんが第 1 位、1 年生の高橋喜美子さんが第 2 位に受賞した。

V. 学生支援

1. 入学者の受け入れ

2010 年の入学人数は、103 名であった。現在、短期大学の募集環境は英語などの教養系に限らず、保育など資格系においても短期大学への進学意識は低下し、非常に厳しい状況である。2010 年度入試ではじめてAO入試を実施し、16 人の入学者を得た。

1) 広報活動状況

掲載日	新聞社	掲載状況	記事内容
2009.9.23.(水)	読売(記事)	記事	大学 英語力を育てる
2009.9.26.(土)	THE DAILY YOMIURI	記事	大学関西フォーラム
2009.10.7.(水)	読売	全五段(広告)	英語力で、わたしが変わる。英語力が、世界を変える。
2009.10.17.(土)	読売	全七段(広告)	英語力で、わたしが変わる。英語力が、世界を変える。
2009.11.1.(日)	産経	記事	AO 入試で大阪女学院大学
2009.11.23.(月)	朝日	テレビ欄(広告)	確かな力が身につく大学
2009.11.28.(土)	読売・毎日・産経	半五段(広告)	同上
2009.12.9.(水)	読売	記事	入学前教育大学苦心
2009.12.26.(土)	読売	半七段(広告)	本気で、英語に取り組む大学 本気で、英語で取り組む大学
2010.1.17.(日)	産経・読売	半五段(広告)	特別給付奨学金制度を新設
2010.1.18.(月)	朝日	同上	同上
2010.1.24.(日)	朝日	同上	同上
2010.2.19.(金)	朝日	同上	同上
2010.2.20.(土)	読売	見開き三段(広告)	継続教育記事下広告
2010.3.21.(日)	毎日・産経・朝日	全 15 段(広告)	「真面目」力、開花宣言。
2010.3.22.(月)	読売	同上	同上

ほか、連合広告数回掲出

2) 入試説明会

a. 進学相談会

受験生との接触の機会をできるだけ多くもつことを目標として実施している(2009 年度 107 高等学校(うち模擬授業 42 回)、57 会場で開催。アドミッションセンターのほか、他部署スタッフも動員し、本学の教育内容を直接説明し、理解してもらうことに意を用いている。

b. 高校進路指導担当者、英語担当者への説明会

本学の教育内容を明確に伝達するための機会として、本学において実際授業を見学することに加えて、場所を変えて教育内容や方法を紹介する説明会を開催した。

＜2009 年度入試実績＞

会場名	開催日	出席数	主なプログラム内容
スイスホテル南海大阪	6 月 23 日 (火)	16 名	公開授業 カリキュラムの特色紹介 教養教育の紹介、キャリア支援の紹介 進路実績の紹介、学生募集について
ホテルグランヴィア大阪	6 月 24 日 (水)	19 名	
ホテル京阪京橋	6 月 26 日 (金)	8 名	
ホテルグランヴィア大阪	6 月 30 日 (火)	25 名	
ホテルグランヴィア和歌山	7 月 1 日 (水)	6 名	

3) 高校訪問

近畿圏内の高校および受験実績のある圏外の高校を中心に、スタッフ (Teaching Staff と Management Staff) で担当校を設定して訪問した。訪問目的は、在学生の近況報告、直近の入試案内。2009 年度訪問校は延べ 262 高等学校。

今後の課題でもあるが、効果的な訪問展開を実施するため、地域別・高等学校進路指導別の訪問校および訪問時期の分類が必要である。

2. 事前学習

入試合格者には、入学後、本学での学習への取り組みをスムーズにするため、オリジナル教材 (CD) 等と課題図書を送付している。

3. 学習支援

1) Self Access & Study Support Center: SASSC (学習支援センター)

SASSC (学習支援センター) は、「学生が主体的に学習を進めること、本学の教員と接する機会を増やすこと、周りの学生と協力して学習すること、学習の振り返りを行うこと、学習時間を確保すること、意欲的な目標に挑戦すること、様々な考えや意見を尊重すること」を目的として、「Writing Center」「Tutoring」「Vocabulary Building」「Grammar Exam Workshop」「Phonetics 理論・Exam Workshop」「Reading Exam Workshop」の 6 プログラムを行った。

a. Writing Center

Writing center は、Writing スキルの向上を目的として、英語ペーパーのテーマやアイデアの組み立て方・書式・添削の支援を行った。曜日・時間・担当者は以下の表のとおりである。

利用件数は、春学期 306 件 (前年 134 件)、秋学期 161 件 (前年 59 件) であった。この利用件数から本学においてペーパー課題が多いことと、課題を課した授業担当者が利用を促す案内をしたことが伺える。しかしながら、利用件数に対しての利用学生数を見てみると、一度利用した学生がその後も利用している傾向があることがわかった。今後はより多くの学生が利用することが望まれる。

春	時間帯	担当	秋	時間帯	担当
月	16:30-19:30	Merritt Aljets	月	16:30-19:30	Merritt Aljets
火	16:30-19:30	Jamie Anderson	火	16:30-19:30	Jamie Anderson
水	17:00-20:00	Brett Gross	水	17:00-20:00	Brett Gross
木	16:30-19:30	Craig Hagerman	木	16:30-19:30	Craig Hagerman

金	16:30-19:30	Craig Hagerman	金	16:30-19:30	Jamie Anderson
土	13:30-16:00	Jacobo Durbin	土	13:30-16:00	Gavan Gray

b. Tutoring

Tutoring は、本学での学習方法の理解を深めることを目的として、予習・復習の具体的な進め方等のアドバイスをを行った。曜日・時間・担当者(卒業生)は以下の表のとおりである。

利用件数が年度途中で 2008 年度と比較で減少したことがわかったため、10 月末より専任教員が担当している「Grammar-2」で課題を課し、Tutoring を利用する形式をとった。その結果、一日あたりの利用件数が増えた。

今後は自主的に Tutoring を利用する学生が増えることが望まれるが、教員が後押しをするような機会を提供し利用者数を増加させる必要がある。

春	時間帯	担当	秋	時間帯	担当
月	16:00-20:00	田仲 由美	月	16:00-20:00	田仲 由美
火	16:00-20:00	安本 有佳里	火	16:00-20:00	後藤 綾那
水	16:00-20:00	後藤 綾那	水	16:00-20:00	秋山 文圭
木	16:00-20:00	田仲 由美	木	16:00-20:00	梶 祐実
金	16:00-20:00	秋山 文圭	金	16:00-20:00	安本 有佳里

c. Vocabulary Building

Vocabulary Building は、The Academic Word List の 570 語を身につけることという目的から、Integrated Units テキストに関する単語を身につけることに目的を変更し、一週間に一度新しい Word List を配付する形で行った。今後は利用者数の増加のために一層の工夫が必要である。

d. Grammar Exam Workshop

Grammar Exam Workshop は、基本的な文法の再確認を行い定着を図ること、テキストの文法項目を異なる角度から復習することを目的とし、定期試験前に Grammar 担当の専任教員が行った。

利用件数は、春学期 66 件、秋学期 9 件であった。

e. Phonetics 理論・Exam Workshop

Phonetics 理論・Exam Workshop は、Phonetics の理論理解のための総復習をすることを目的とし、定期試験前に Phonetics 担当の専任教員が行った。

f. Reading Exam Workshop

Reading Exam Workshop は、パラグラフやエッセイの構造、アウトラインの形式、エッセイの内容理解、Transition (つなぎことば) の用法、Summary の復習、Rhetorical pattern の理論と判別の復習することを目的とし、定期試験前に Reading 担当の専任教員が行った。

2) Study Skills & Tips at OJC-学びの手引き-の発行

学習サポート委員会が2008年度に実施した「学生の学習意識・実態基本調査」の結果、「大学での学び」のあり方を十分に理解していない学生がいることがわかったので、高等学校と大学での学びの違い、英語学習の四技能「読む・聞く・書く・話す」、ペーパーの書き方、プレゼンテーションの方法、それらの根底に必要な思考力・論理力を高める方法などをまとめた「Study Skills & Tips at OJC-学びの手引き-」を作成し、全学生を対象にオリエンテーションで配付、説明を行った。今後は学生がこの手引きを効率的に利用した学習指導・相談のサイクルを構築する。

4. 学生生活支援

1) 学友会活動支援

学友会活動について学生サポート推進部は「助言と協力」を基本姿勢に、学友会活動に

関するオリエンテーションを実施した。2009年度の活動方針を確認し、年間の活動計画として大学祭行事やアルバム撮影、カレッジリングなどのイベント企画の構成などに関わった。

また、執行部員の勧誘から学友会執行部と定例会を行い、日々の活動を把握しながら、リーダーシップの育成に努めた。年度末には1年間の活動のふりかえりを行い、新執行部への引継ぎを行った。

2)学友会活動と状況

執行部の構成は、短期大学2年生5名、短期大学1年生3名、大学2年生9名、大学1年生18名と40名近くの組織になった。ここ数年は、四大学生の執行部員が増えて、短期大学生の執行部員が減少している。大学生の人数が多い為、就職活動や編入学試験などで時間のとれない短期大学生を四大学生がカバーして業務に支障はなかった。

学生の自治組織としてのリーダーシップを学友会執行部の活動の中に育み、いわゆる「サークル活動」とならない為に、大学がいかに学友会執行部と関わっていくかが課題である。

3)大学祭について

学友会執行部が主催する大学祭は、「素敵女子1・2・STEP」と題して行われた。

大学祭の活性化を目指して、グラウンドに野外ステージを設営しステージイベントや、本学院125周年講演が実施された。2009年度より併設中学・高等学校が土曜日の授業を再開したことから、初日は午後まで一般入場が規制され、実質は1日半の実施であった。また、エコプロジェクトとしてのリユース食器利用は今年が3回目となり定着した。前述の野外ステージの設営や大学祭のプロデュースを企画会社に依頼し、大学祭をよい思い出として印象付けるようなディスプレイや企画を実施した。食べ物を販売する模擬店は多いが、大学生としての学習・研究・活動に関わる展示企画や催しは少なく、単なるお祭りとしなない動機の立ち上げが課題である。

4) 課外活動

今年度、活動しているクラブ・同好会は以下のとおりである。課外活動は大学学生と合同で行っているが、ここ数年、短期大学生の部員が減少している。

名称	部員数	活動回数
ダンス部	2 (22)	125
ゴスペル部	1 (10)	80
Amigos de Apple 部	— (—)	36
フォークソング部	11 (16)	253
バレーボール部	2 (9)	29
バスケットボール部	3 (16)	29
お洒落部	1 (7)	—
アルトス部	1 (7)	—
チアリーディング部	1 (8)	110
バトミントン部	— (—)	20
ボランティア部	— (—)	14
ブラスバンド部	2 (11)	94
地球技部	— (—)	12
写真部 (青いレンズの会)	3 (12)	5
沖縄同好会 (ニライカナイ)	4 (5)	—
フェアトレード同好会 (PEACE)	— (—)	14

表中、() 内の数字は併設大学の学生との合計人数
「―」の表記は、報告のないケース

5) 奨学金受給状況

奨学金募集は、春学期3回、秋学期2回と昨年度よりも説明会を増やして多くの学生が応募できる機会を設け、本学の奨学生採用に関する基本的方針を伝えた後、応募方法について説明をした。生活サポート委員会を開催し、選考において決定した。2009年度、新たに採用された奨学生者数は以下のとおりである。

また、2009年度卒業生対象に奨学金返還の説明会を2回実施して、早期手続きに努めた。

	有資格者	採用数
予約奨学生(日本学生支援機構)	―	42 名
定期採用(日本学生支援機構)第一種	15 名	10 名
定期採用(日本学生支援機構)第二種	20 名	15 名
定期採用(学内貸与奨学金)	23 名	6 名
定期採用(学内支給奨学金)	15 名	1 名
その他の奨学金	―	0 名

5. 進路支援(キャリアサポートセンター)

1) 活動の概要

1990年代の就職氷河期時代にも増して、2008年9月の、いわゆるリーマン・ショック以降、2009年度も引き続き採用環境は厳しく、2010年3月の卒業生に至っては求人倍率1.62倍、大学就職内定率(2010年2月厚生労働省調査)では、80.0%、短期大学の女子は67.3%と、不況による企業の経営環境悪化により、非常に厳しい状況であった。

秋以降の厳しい就職環境の中で、教職課程履修者、大学編入学予定から就職に進路変更した学生などにとってはことさら厳しい就職活動を強いられる結果になった。

キャリアサポートセンターでは学生一人ひとりの決め細やかなカウンセリングを通じて、企業への適性や経営状況を含む企業研究を徹底させる取組を行った結果、80.7%(就職先決定者46名/就職希望の卒業生57名)^{注2}の就職率となり、全国平均を少し上回った。又、継続して就職活動を行うために卒業を留保した学生24名に対しては、3月に就職活動支援特別セミナーを設定した。きめ細かな指導をするため、2クラス編成とし3日間にわたって実施した。

注2: 卒業生108名の状況 (就職46名、編入学38、専門学校1、アルバイト2、就職未定11、編入学準備2、留学準備1、その他7)

2) 具体的な取組

a. 職業意識醸成とキャリア形成支援のために(1年生対象)

しごとセミナー

将来の仕事についての認識を高めさせるため、エアライン業界、公務員、国際貢献などの仕事紹介と、それらの職業に就くためにどのような準備が必要か・・・をテーマとしたセミナーを6月～11月にわたって6回実施した。

b. 就職ガイダンス(1年生対象)

10月～翌年2月、短期大学1年生を対象として就職ガイダンスを12回シリーズで開催した。就職ガイダンスは以下のポイントに重点をおき、主として当センターのスタッフがインストラクターとなって実施した。依然としてガイダンス出席率の低い学生が就職活動で結果を出せないという現状もあり、ガイダンスの内容の見直し及び出席率を上げる策を検討する必要がある。

＜就職指導のポイント＞

- ① 企業から選ばれると同時に、こちらも企業を選ぶ視線をもつこと。
- ② 女性が長く働き続けることができる制度と文化をもつ企業を選ぶこと。
- ③ 学生一人ひとりの主体性を尊重する。

c. 卒業生のキャリアアップ支援(短期大学卒業生対象)

2006年度から取り組んでいる卒業生支援プロジェクトは、当センターウェブサイト以外で一切PR 活動は行っていないが、毎月1－2名のペースで短大卒業生が転職相談に来校し相談に応じている。

d. 卒業留保生の支援

次年度も大学に在籍し、就職活動を続ける学生に対して、2010 年3 月に急遽特別支援セミナーを実施し、新年度の4月以降にも、特別支援セミナーなど、今後、卒業留保する学生に対しての支援策を打つ必要がある。

3) 2009 年度卒業生の就職状況

就職希望者の 2010 年4月末現在の就職決定率は 80.7%で、全国平均以上の成果を上げたものの、高い就職率を保てていない。

金融業界を中心として、一般事務職採用の四大生へのシフトが進行する中で、企業が求める採用要件が高くなり、不況下での短大生の就職環境は極めて厳しいものであった。

6. 編入学状況

今年度の編入学の合格者数は 48 名、入学者数は 38 名であった。昨年度の合格者数 22 名、入学者数 19 名に比べ、2 倍に増加した。増加した理由として、夏期小論文対策講座等の支援策を新たに講じたこと、大阪女学院大学の編入学出願資格が整備されたことが挙げられる。

	大学名	学部	合格	入学	(内指定校)
国立	京都教育大学	教育学部	1	1	
	三重大学	人文学部	1		
公立	大阪府立大学	人間社会学部	2	1	
	大阪市立大学	文学部	3	3	
	神戸市外国語大学	外国語学部 二部	1	1	
	山口県立大学	国際文化学部	1	1	
	大阪女学院大学	国際・英語学部	10	10	
私立	関西外国語大学	外国語学部	2	1	
	関西大学	文学部	1		
	関西学院大学	社会学部	1		
		人間福祉学部	3	3	1
		総合政策学部	5	5	3
	関西福祉大学	福祉社会学部	1	1	1
	京都女子大学	現代社会学部	1	1	
		発達科学部	1	1	
		文学部	1	1	
	京都外国語大学	外国語学部	2	1	
	近畿大学	文芸学部	1		
		経営学部	1	1	
	園田学園大学	人間健康学部	1	1	
	桃山学院大学	国際教養学部	1		
	同志社女子大学	学芸学部	1	1	
	同志社大学	文学部	2	1	
	プール学院大学	国際文化学部	2	2	
		国際文化学部	2	1	
	合計		48	38	5

VI. 研究

1. 機関リポジトリの構築

教職員、学生の教育・研究、学習成果を収集・整理・保存してウェブで外部に発信する機関リポジトリの構築準備を進めた。研究活動報告などを含む短期大学紀要のデータを収録した。

2. 研究活動委員会関係

1) 紀要発行

『大阪女学院短期大学紀要』第 39 号(2010 年 3 月 1 日発行)

(執筆者:専任教員 1 名 非常勤講師 2 名 本学専任教員との学外共同執筆者 1 名)

2) 研究会の実施

下記のとおり、学内研究会を実施した。

外部講師を招いての研究会(今年度は中止)

学内講師による研究会

実施日:2010 年 3 月 9 日(火)14:00~16:00

場 所:本学 会議室 I

対 象: 大学・短期大学 専任教職員、学生

(内 容)

題 目:平和ワークにおける芸術アプローチ

講 師:大学准教授 奥本京子

題 目:Achieving Immortality

講 師:大学教授 Steve Cornwell

題 目:古代キリスト教思想家オリゲネスの神学について

講 師:大学准教授 梶原直美

3. 専任教員の研究活動

1) 専任教員の自己申請により、『紀要』巻末には当該年の研究活動歴が個人別に[I.著訳書、II.学術論文、III.その他の著作(報告、雑誌、新聞等)IV.学会発表、V.その他の発表(シンポジウム、講演、放送等)、VI.学会および公的な機関の委員、VII.科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究]順に報告されている。

2) 教員の研究業績は、ホームページ上に公開している。

4. 民間等の研究補助を受けた研究

山田 一美 「日本人児童による英語の名詞句の解釈、及び語順の習得」 第 4 回博報 ことばと教育 研究助成事業(研究助成部門)(研究代表者) 2008 年 4 月~2010 年 3 月

5. 学会および公的機関の委員

本学ティーチングスタッフが担っている学外での主な役割は以下のとおりである。

Fujimoto, Donna

- (1) Program Chair, SIETAR Kansai
- (2) Publicity Chair, Pragmatics Special Interest Group, JALT
- (3) Coordinator, Contrast Culture Method Special Interest Group, SIETAR
- (4) Coordinator, Nikkei Gathering

McCarty, Steve

- (1) World Association for Online Education 名誉会長 2007 年—現在に至る
- (2) Asia-Pacific Association for Computer-Assisted Language Learning 広報委員 2007 年—現在に至る
- (3) ベネッセ コーポレーション Worldwide Kids English メーン監修 2006 年—現在に至る
- (4) Child Research Net, Advisory Board Member, 2001 年—現在に至る

中井 弘一

- (1) 大阪府立泉陽高等学校「文科省英語教育改善のための調査研究事業」 運営指導委員 平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月

関根 聡

- (1) 高槻市男女共同参画審議会 委員 2009 年 11 月～2011 年 11 月
- (2) 大阪市男女共同参画審議会 委員 2009 年 8 月～2011 年 8 月
- (3) 八尾市男女共同参画推進にかかる条例検討委員会 副座長 2009 年 6 月～2010 年 3 月
- (4) 高槻市男女共同参画センター 男性セミナー企画運営委員会 委員長 2009 年 4 月～2010 年 3 月
- (5) 学校法人池田五月山教会学園 評議員 2008 年 4 月～2012 年 3 月
- (6) 東大阪市社会福祉協議会:福祉と人権 推進委員会 オブザーバー 2005 年 11 月～

Verity, Deryn

- (1) Japan Association for Language Teaching. Co-chair, annual international conference, November 20-24, 2009
- (2) JALT Teacher Education Special Interest Group, co-coordinator, from November 24, 2009

山田 一美

- (1) 日本第二言語習得学会 監査委員 2007～2009

6. 研究費の利用状況

大阪女学院短期大学の専任・特任教職員の研究活動に資するため、個人研究費と、特定の課題について共同して行う研究を助成する共同研究費を設定している。

個人研究費は、専任教員に対して年間 50 万円(旅費: 20 万円、旅費以外: 30 万円)、特任講師に対して年間 20 万円(内訳の設定なし)を限度に支給される。共同研究費については、審査を経て採否と金額が決定される。

2009 年度は個人研究費のみが執行され、利用の傾向は 2008 年度とほぼ同等である。

予 算 :	790 万円
使用総額:	397 万円(執行率 50.3%)
内 訳	消耗品費 168 万円(42%)

旅費・参加費	113 万円 (29%)…うち、海外旅費は 78 万円
機器備品費	72 万円 (18%)
諸会費	35 万円 (9%)
その他	9 万円 (2%)

VII. 社会的活動

1. 高大連携

2009 年度高大連携活動は 111 件 104 校で実施した。

プログラム

模擬授業	42 件
進路全般講話	7 件
外国語・国際分野	23 件
学校説明	22 件
職業関連	11 件
大学コンソーシアム	1 件
大学見学(市立中央高校)	1 件
短大進学者への受験対策	2 件
面接指導	1 件
オーストラリアへの語学研修者への事前研修	1 件

VIII. 管理運営

1. 組織体制

本学の教授会は、2004 年度以来、学校教育法施行規則第 66 条の二に基づいて、教授会規程及び関係規程を定めた上で、教育研究および運営に関わる事項について審議してきたが、2008 年度に新しい組織体制を導入した。2009 年度には、前年度の組織運営状況とともに、本年度に決定された理事会組織の改革も踏まえ、更なる体制改革を推進した。

また、本学は二年制・四年制を一体の組織と考え、所属や担当科目の如何にかかわらず、それぞれの事業計画や課題への取組みについて共に検討する場としている。

今年度は、校務に関する諸事項を8つの部署で分担し^{注3}、各委員会の活動を取りまとめた。さらに、この 8 部署の運営を迅速に進めるため、基本的には、昨年設定したディレクターボードと副学長会を統合する形で、ディレクターミーティング(以下、DM)^{注4}を設定した。大学運営に係る意思決定事項を、①DMで基本となる考え方や方針を整理の上、教授会で審議・決定を行う事項と、②DM自体が運営に関する決定を行う事項に分類した。

注 3: 大学教育研究推進部、国際交流センター、学生サポート推進部、運営管理部、学長室、継続教育センター、研究所、教員養成センター

注 4: 構成する人員は以下のとおり

学長、学長代行、副学長、学長補佐、ALO、CLC、部長など計 22 名

2. 運営管理組織の整備と取り組み

2008 年度までの体制を基本にしつつ、2009 年度は学長の構想に基づき意思決定体制を再整備した。教授会メンバーの中から 22 名を選出しディレクター・ミーティング(以下「DM」という)を組織し、教授会規程に定められた審議事項の一部について、DMが審議行なうことと定め、教授会での審議事項についても、原則としてDMが予めその審議内容について検討した上で教授会に提出されることとした。これにより、審議あるいは重要事項の報告を小まめに検討・実施することが可能となり、学校運営に関する意思決定が迅速に行えるようになった。

加えて、中期的な視点に立った本学運営方針を企画し、業務運営状況を評価する部署として、学長室会を新たに設定した。

また、日々の業務の進捗に対して、プロセス管理・報告、改善への勧告、勧告の遵守を推進するコントローラー(学長補佐)2名を設定した。

これらの体制の整備により、今年度1年間の大学・短期大学部門の業務にPDCAの仕組みを確立することによって、事業計画の遅延等のリスクを極小化し、自己点検の結果を踏まえた組織運営の改善のための取り組みに結びつける、継続的な内部質保証システムを機能させようとしている。

3. 危機管理

1) ID カード

学院敷地内の安全を担保するために学院全体でスタッフの ID カードの携行を始め、専任職員についてはほぼ全員が携行するようになった。しかし、特に兼任講師を中心として、教員への徹底が不十分であるため、2010 年度からは、キャンパス立ち入り時点で、ID カードの提示を義務付けることとした。ただし、学生を識別する有効な手段がないため、IC チップ入り学生証の活用など、技術的な可能性を検討する。

2) 安全避難訓練について

例年どおりの手順で災害緊急時(本館2階のトイレ付近からの火災を想定)の避難経路を確認す

ることを主に、安全避難訓練を実施し、グラウンドでの消火訓練では多くの学生が積極的に参加した。一年生は、アセンブリーの時間で出席者数を一定確保したが、授業がない 3・4 年生の参加が少なかった。

避難・消火訓練の後、中央消防署員により、AEDの使用に関する講習が実施され、職員や学生の有志約 10 名による実技演習が行われた。過去の実例を踏まえた具体的な対応について説明や質疑応答があり、学校内だけでなく通学途中の心がけなどについて意識が高まった。

3) 新型インフルエンザ対応について

新型インフルエンザの流行に対処するため、1週間の休講に加え、女学院全体の施策の一環として、非常勤講師や派遣社員を含む教職員全員に対して予防接種を勧奨し、教職員が病気の発信源とならないよう働きかけた。また、学生に対しても注意を強く喚起するとともに、教職の実習予定者や海外渡航予定者などに対する予防措置を推奨するとともに、発症した学生に対し出席・登校・課外活動を禁ずる一方、欠席により当該学生が学業・評価上の不利益を被らないためのルールを設定し運用を始めた。

IX. 財務

1. 補助金の獲得

2009 年度の、私立学校振興・共済事業団を通して得られた公的補助金の獲得額は一般補助 48,027 千円(前年度 54,240 千円)、特別補助 18,368 千円(前年度 9,421 千円)の計 66,395 千円(前年度 63,661 千円)であった。2009 年度から配分方式が変更された「特別補助」の比率は 27.7% となっている。

上記の他、2009 年度に新たに「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム(学生支援GP)として、「戦略的就職支援システム導入による就職サポートサービスの充実化」の取組を四年制大学と共同で申請し、採択され、総額で 7,011 千円の補助金を受給している。

なお、本学が採択を受けていた競争的な特別補助金の支給年限(3 年間)が概ね 2008 年度で終わり、また、私立学校振興・共済事業団を通じた競争的補助金制度が廃止となったことにより、今後、私立学校振興・共済事業団を通しての特別補助額の上積みは見込むことができない。今後は、文部科学省を申請窓口とした新たなGP等競争的補助金の獲得が課題である。

2009 年度に本学が受給した事業は以下のとおりである。

1) 教育・学習方法等改善支援経費(競争的特別補助金)

- a. 人に関わることの意味と自らの内にある生きる力に気づくリトリートの取り組み
- b. 異なりを越えて共生を考える「人権教育講座」の取り組み

2) 「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム

戦略的就職支援システム導入による就職サポートサービスの充実化

2. 財収改革

従来、募金活動は、卒業生とその関係者を対象とした「ウキルミナ・サポート教育環境整備寄付金」と新入生保護者を対象とした「教育環境整備支援特別寄付金」の 2 寄付金募集を実施してきた。しかし、2009 年度は 125 周年記念募金運動との重複感がでないようにするため、学院全体の募金活動に統合し、短期大学独自で特別な募金活動は行わなかった結果、約 70 万円の実績となった。

X. 改革・改善

1. FD・SD

ティーチングやアドミニストレーションに必要なプロフェッショナルとしての幅広い職能を開発すること、さらには、掲げる教育目標を現実に翻訳し、これを実現する組織を開発すること。前者は「個人の教育力」を高める努力であり、後者は「組織の教育力」を強める取り組みである。FD・SD活動はこれら両面において不断に展開することが求められている。

本年度は、今日の多様化(価値観、能力など)する学生を前に、どのような学習目標や方法を設定し、期待する成果を上げるか。学士課程教育の根幹をなす「Learning Outcomes」に主眼を置き、授業改善の工夫について研究協議の機会を設けた。学生の参画(6名出席)を得たのは今回がはじめて。次年度は成果の確認、そのための評価指標・評価基準の設定について学ぶ計画をもっている。

2. 相互評価

福岡女学院大学短期大学部との第2回相互評価を行った。今回は「キャリア教育」をテーマに、両短期大学で自己評価作業を行い、2009年12月19日(土)に、本学において相互評価会を行った。それぞれの自己評価結果への質疑応答から、共通の課題として「キャリア教育」への取り組みについて討議を行い、報告書にまとめインターネット上に公開した。

URL: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/profile/disclosure/pdf/accredit02.pdf>

3. 各種調査

学長室が、各授業への満足度や各年次の学習生活・学生生活の状況を把握するために、年間を通して下記の調査を実施した。これらの集計結果は、前述の教育組織(各授業担当者及び担当委員会等)での検討資料としている。

1) 意識調査(4月)

新入生意識調査

2) 満足度調査(2月)

1年生キャンパスライフ・アンケート、チュータリング・アンケート、ライティングセンター・アンケート、図書館利用調査、2年修了時アンケート

3) 学生による授業評価

1年次英語統合科目(6月、7月、11月2月)
全科目・クラス(2月)

大阪女学院大学 2009 年度事業報告書

(2009 年 4 月 1 日から 2010 年 3 月 31 日まで)

学校法人大阪女学院

2010 年 5 月 26 日

I. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

大阪女学院大学は、ミッションステートメントに基づいて、国際社会に積極的に参画する女性の育成を行うことを目的に構想され 2004 年 4 月に開学しました。学院は、1884 年にウエルミナ女学校として創立され、2009 年度に 125 周年記念の年を迎えました。

ミッションステートメント

本学は、キリスト教に基づく教育共同体である。
その目指すところは、真理を探究し、自己と他者への尊厳に目覚め、
確かな知識と豊かな感受性に裏付けられた洞察力を備え、
社会に積極的に関わる人間の形成にある。

養成する人材像

- 1) グローバル化の進む現代社会の中で、自己のアイデンティティを確立し、生きる力をより強固に形成する新しい世代の女性
- 2) 平和、人権、環境の保全、多文化共生など、人類文明が崩壊しかねない危機と課題を一人の地球市民として真剣に学習し、世界の人々と認識を共有する女性
- 3) グローバルなレベルでの国際通用性のある英語運用能力を実現し、上記の課題解決に専門職業人として積極的に関わることを志す女性
- 4) 独立した個人として自分らしく生き、そのような社会を拓くことのできるリーダーシップのある女性

1. 新入生オリエンテーション

オリエンテーションは、大阪女学院大学での学習を始めるにあたり、建学の精神や教育理念、教育目的・教育目標、教育課程について一定の理解をした上で、高校までの学びから大学での学びにギアチェンジし、学生が主体的に行動できるための意識を立ち上げてスタートをきるための導入プログラムである。

オリエンテーション期間中に行うオーバーナイトオリエンテーションは、一泊二日の合宿プログラムであり、新入生同士や Big Sister (2 年生奉仕者)、スタッフと、体験、期待、希望、不安などを分かち合い交流を深めるとともに、大阪女学院大学を自分の学びのステージとして認識していく場でもある。

1) オリエンテーションの主なプログラム 期間：2009 年 4 月 4 日(土)～11 日(土)

- a. オリエンテーションのねらい
- b. カリキュラムについて(含 海外プログラム)
- c. キリスト教教育について
- d. 教職課程について
- e. チャペルオリエンテーション
- f. 学生サポートについて(学生生活、相談システム、キャリアサポート)
- g. マネジメントスタッフの役割
- h. Learning Resource Center / Computer-Assisted Language Learning について
- i. 図書館ツアー
- j. BS(Big Sister)アワー
- k. 2 分間スピーチ
- l. Placement Test
- m. 学友会より(学生自治会案内、クラブ紹介)
- n. 自宅外通学生の集い(対象者)

2) オーバーナイトオリエンテーションの主なプログラム 期間：2009 年 4 月 7 日(火)～8 日(水)

セッション I：「ここでどう学ぶか」国際英語とは、英語を語る上での教養教育の必要性

レクチャ&パネルディスカッション

セッションⅡ：「Passport to English」-英語で楽しむプログラム

セッションⅢ：「大阪女学院の常識クイズ！」

セッションⅣ：「ビッグシスター・アワー」

セッションⅤ：「大阪女学院大学で学ぶとは」

セッションⅥ：「興味と関心の自己点検」

セッションⅦ：「まとめ／1年後の自分への手紙／アンケート」

3) 2分間スピーチのテーマ(新入生が選択する)

- 自分への期待
- 大学生活の目標
- 学習面での目標
- これから私を支えるもの

この一連のオリエンテーションを通して、新入生は本学での学習の目標をまとめ、オリエンテーション最終日に、25名程度のグループの中で2分間スピーチを行い、翌日からの授業へと向う。

オリエンテーション終了時のアンケートでは、新入生166名のうち159名(回収率95.8%)の回答があり、「大学生活を送る上で必要な情報を得ることができましたか」と問いに、91.2%が「得ることが出来た」と回答し、「大阪女学院大学で有意義に学習を進めるためには何が必要だと、今、感じていますか」(準備された語群から5つまで選択できる)の問いに、回答者が選択した言葉は「予習」(56.0%)、「復習」(53.5%)、「勤勉」(40.9%)、「好奇心」(39.0%)、「視野の広がり」(38.4%)、「熱意」(35.8%)、「計画性」(32.1%)、「要領」(29.6%)、「勇気」(23.9%)、「情熱」(21.4%)、「思考力」(21.4%)、「愛」(17.0%)、「手際の良さ」(15.1%)と続く。

また、「大阪女学院大学での学生生活で、自分の成長に何を今、期待しますか」(同上)の問いに、回答者が選択した言葉は「語学力」(100.0%)、「口語表現力(外国語)」(67.5%)、「自己理解」(51.5%)、「知識量」(50.3%)、「思考力」(42.9%)、「文章表現力(外国語)」(40.5%)、「他者理解」(28.2%)、「人間関係の技術」(27.6%)、「知的センス」(11.7%)、「口語表現力(日本語)」(11.7%)と続く。

2. 導入教育科目「大学教育と社会」について

世界的な規模で社会を形成する価値の相対化が進んでいる、その只中にある学生が、大学で学ぶ意義をどう見出せるのかを考える、1年次必修の通年科目である。授業を受け考察を進めて、「大学で学ぶということ」をテーマに、各自がサブテーマを定めて2,400字の小論文にまとめる課題に取り組んでいる。

3. キリスト教教育

キリスト教教育は、必須科目「聖書と世界」、選択科目「キリスト教と世界」及び、礼拝、リトリート等の行事を軸としている。2009年度の卒業アンケートによると、「本学の理念が自分自身の成長に影響を与えたと思いますか。」との問いに、59.8%が「影響があった」と回答している。一方、「キリスト教関係のプログラムは、あなたの成長にどのような影響を与えましたか。」との問いには、13.4%が「影響があった」と回答しているに留まっている。

かねて、Elder 名誉教授が投げかけた「学生の自己概念に影響を与える意味で成功していると言えます。・・・いまの傾向が続けば、・・・ほとんどの学生が自分の生き方を考え、見つめ、選ぶ材料としてキリスト教のことは全くと言っていいほど、知らなくなるでしょう。・・・いまの時代、いまの状況の中で、いまの学生に関わり、共にキリストをどう伝えればいいのか」という問いを、自らの課題として問いつづけなければならない。

2009年度の礼拝に100回以上出席した学生を対象に、顕彰をおこなった。今年度の該当者は2年生2名であった。

4. 人権教育

人権教育講座を10月21日(水)～11月4日(水)に開催した。これは、導入プログラム、オープニングプログラム、2日間の分科会、クロージングプログラムを5日間にわたって二年制、四年制の1・2年生を対象に共同で行なう講座である。2009年度は14のテーマ別各分科会を開講した。

学生の受講率の向上を計るため、2009年度より導入プログラムを新たに実施し、これまで2年間で2単位を認定していたが、これを年度毎の受講で1単位を認定することとした。しかし、1・2年生を併せて、完全出席者が198名(71.0%)と、ほぼ昨年並みであり、さらに検討する必要がある。

5. 学期末レビュー

1学期間の学習を経た学期末に、1年生一人ひとりが自ら、当該学期間の学習の意味を振り返り、次の学習に向かう姿勢を得ることを目的として、学期末、定期試験の最終日に実施しているプログラムである。今年度より「大学教育と社会」・「大学と自己形成」授業の一環として取り扱い、ほぼ全員の参加が実現した。

1) 春学期：8月14日(金) レクチャー 講師：中垣学長代行、井上教授

2) 秋学期：2月10日(水) ワークシートを使って(グループワーク)

レビューの視点(抜粋)

- a. 秋学期、これはできたと思うこと、できなかったと思うこと
- b. 新しい自分の発見はありましたか(良い面、良くない面を含めて)
- c. 自分の関わった人(友達、家族、先生 など)との出会い、またある本を読んで、ある社会的出来事を通して気づいたことで、自分が変わったと思ったことや、さらに、成長できたと思うことはありましたか。それはどのようなことでしたか。
- d. これからの自分の目標は—このようになりたいと思う自分をイメージして具体的に書いてみましょう

6. 講師オリエンテーション

1) 英語担当者ワークショップ

専任及び非常勤講師を含む総ての英語教育科目担当者全員が集い、2009年4月1日(水)にオリエンテーションを開催した。英語教育科目担当者用カレッジカタログ(授業担当マニュアル)を基に、各学科目のリエゾンより授業の概要、目的、到達目標、評価方法など授業展開及び学生指導の方針についての説明と、具体的な授業運営についての打合せを行った。

2) 講師オリエンテーション、ファカルティー・デベロップメント

特任・非常勤講師を対象に、2009年10月3日(土)に講師オリエンテーションを開催し、「高等教育をめぐる動向と大阪女学院大学・短期大学の課題について」と題したFDを行い、続いて2010年度の本学の教育展開についての説明ならびに意見交換を行った。

7. 学院創立125周年

1) 学院創立125年式典を、御来賓、学生および教職員の参加により、2009年10月8日(木)に大阪国際会議場で開催した。

2) 建学時の精神や125年にわたる生徒、教職員の足跡に関わる書誌を刊行した。

a. ウェルミナ物語 大阪女学院創立125周年記念誌

- 一生徒・学生による共同絵画— 生徒・学生からの言葉集

II. 教育の内容

国際・英語学部 国際・英語学科の教育課程は、教養教育科目、英語教育科目、専門コース教育科目の学科目群から構成されています。

専門コースは、国際協力コース、国際マネジメントコース、国際コミュニケーションコースの3コースで構成されていますが、専門の学修は個別コースに限定されるのではなく、関心や目指す進路によって多様な選択肢があり、「卒業研究」では、「国際・英語学部としての学修の総集」としての成果物の作成に取り組むことになります。

教育課程の構成と各群のねらい

- 1) 教養教育科目(必修科目 17 単位、選択必修科目 16 単位以上): 真理を探究し、自己と他者の尊厳に目覚め、確かな知識と豊かな感受性に裏付けられた洞察力を備えて、グローバル化の進む現代社会に積極的に関わるための知的素養を、4年間を通して涵養する。
- 2) 英語教育科目(必修科目 38 単位、選択必修科目 14 単位以上): グローバルなレベルでの英語のコミュニケーション能力の獲得を可能とするため、a.英語によるコンテンツベースの授業展開、b.少人数による習熟度別クラスの展開、c.学修支援のためのサポート・センターの常設、d.英語スキル目標達成のための英語診断テストとそれに基づく補完教育の実施、e.IT 化された授業の実践、f.「平和」「科学と宗教」「人権」「生命の危機」の現代的課題を扱う4つのコア・トピックの設定、などのカリキュラム展開を実施し、充実した英語運用能力を養う。
- 3) 専門コース教育科目(必修科目6単位、選択必修科目 26 単位以上): 国際社会に通用する実践的な英語力をもとに、コース分野別の専門知識・教養を深め、またそのスキルを身につけ、卒業後に期待される専門職業能力を育成する。

1. カリキュラム改革

2008 年度入学生から導入した第一次改訂カリキュラムが2 年目を迎え、前期2 年間の教育課程及び専門コース教育科目の基礎群が新カリキュラムに移行した。

2004 年度カリキュラムを適用している学年の履修については、開講形態の工夫、新・旧学科目の開講、新学科目の履修などの移行措置を行っている。

2. 学生の積極的な参加による授業展開を実現する少人数クラス編成

2009 年度の開講科目数は 168 科目であり、開講クラス数の総数は下表のとおり 548 クラスである。内 30 人以下で実施されているクラスは 474 クラス(86.5%)、20 人以下のクラスは 177 クラス(50.5%)である。

なお、100 名以上のクラスは 1 学年全員で受講する必修科目であり、その授業展開はグループ別学習や個人面談を組入れた工夫をしている。

受講者数	クラス数
1～10 名	120
11～20 名	157
21～30 名	197
31～40 名	48
41～50 名	16
51～60 名	7
61～70 名	1
71～80 名	0
81～90 名	0
100 名以上	2
計	548

二年制との共通科目は、二年制受講者数を含む

3. 英語を使用言語とした教育課程

英語教育科目から履修する 52 単位中、「英語展開群」の 29 単位 (55.8%) の授業科目は、英語を使用言語としコンテンツベースの学習を行っている。また、3・4年次に履修する専門コース教育科目「専門展開群」18 単位は、英語を使用言語として学習を行う。

これらの学習においては、情報のインプットから、ディスカッション、口頭発表や論文の作成にいたる学習プロセスを英語で行っている。読む、聴く、書く、話すの四技能を統合した四年間を通した学習により、English for Academic Purpose (学術英語) あるいは English for Professional Purpose (職業英語) の獲得を企図している。

4. 海外プログラムと留学生の受け入れ

分野別専門教育科目として、インターンシップとフィールドワークを実施した。インターンシップは、8 月上旬から 6 週間、海外の企業で勤務する研修プログラムである。TOEIC675 点以上 (誤差範囲の 640 点以上を含む) を取得している学生に参加資格があり、2009 年度は、オーストラリアに 8 名、香港に 1 名、アメリカの提携大学の事務局に 2 名の計 11 名の学生が参加した。

フィールドワークは、インドに 9 名、マーシャル諸島に 7 名、カンボジアに 5 名、ベトナムに 2 名、台湾の台北と台南に 2 名ずつの 42 名、栃木的那須高原にあるアジア学院に 5 名の学生が参加し、2009 年 8 月下旬から 9 月中旬の 10 日から 14 日程度の期間、現地での学習を行った。

海外の提携大学の正規の課程に 1 学期間留学し、本学の専門教育科目展開群に相当する専門科目を履修することを主たる目的として実施するセメスター留学は、春学期に、韓国の Ewha Womans 大学に 3 名、台湾 Yuan Ze 大学に 2 名の学生が、秋学期は Ewha Womans 大学に 1 名、Yuan Ze 大学に 2 名の、計 8 名がセメスター留学を行った。

TOEIC のスコアをあげて英語運用能力を伸ばす目的で、3 年次夏期休暇中に実施する English for Academic Study (EAS) (8/22 から約 4 週間) に 46 名の学生が参加した。また、2 年次末の 2 月に実施する Short Term Learning Abroad Program (STLAP) に、オーストラリア 14 名、ニュージーランド 15 名の計 29 名の学生が参加した。

さらに、2009 年度は初めて留学生を受け入れた。6 月に約 2 週間の予定で、YMCA of Hong Kong からの 2 名の短期留学生は、学生との交流や日本文化・日本語の学習を中心としたプログラムを受講した。

また、台湾の提携校 Yuan Ze 大学からセメスター留学の留学生 1 名を受け入れ、秋学期の本学正規課程の授業を受講した。今後、積極的に留学生の受け入れと本学学生との交流の機会を提供するため、人事及び体制を整備している。

5. 履修指導と関係規程の整備

2009 年度末、4 年間で卒業要件単位を修得できず留年が決定した学生は 38 名で完成年度以降増加傾向である。この状況を踏まえ、再試験対象者や評価が Incomplete (保留)^{注1}となった学生を対象に教務面談をおこなうなど、学習サポートの充実を計った。

また、今年度からアドバイザー制度を導入し、新入生を対象に学習への取組だけでなく学生生活全般における支援を実施した。アドバイザーアワーへの参加率の低下など、制度を定着させるための課題を残すが、学生一人ひとりとコミュニケーションをとりつつ、今後も支援態勢を整備する。

注1: 春学期と秋学期に継続して履修し、春・秋両クラスでの学習の継続性を前提としている授業科目において、春学期クラスの評価が 60 点に満たない場合、秋学期クラスの学習成果をもって春学期の成績を再評価する制度

III. 教育の実施体制

1. 教員組織

2009 年度の教員組織は以下のとおりである。

教授	16 名 (4 名)	
准教授	9 名 (1 名)	
兼任講師	114 名 (26 名)	()内は外国人教員

2. 教育組織

教育組織は二年制と統一した体制をとり、Academic Coordinator の下、Liaison, Team Leader が各群・科目・クラス間の授業展開、学生指導、成績評価などの調整をおこない、教育の質の維持・向上を図っている。

1) Academic Coordinator	中垣
2) Liaison	
a. 1 年次英語必修科目	
Topic Writing	Johnston
Topic Reading	稲田
Topic Discussion	Verity
Phonetics(Coordinator)	米田
Grammar	寺
b. 2 年次英語必修科目	
Theme Studies I・II	Swenson・加藤
Study of Current World Events	Fujimoto
c. 英語基礎群	
Computer Assisted Composition	Johnston
Academic Writing	Johnston
Computer Assisted Speed Reading	稲田
Interpreting	友野
Translation	寺
Debate	Swenson
Speech Communication	Verity
Oral Interpretation (Coordinator)	米田
d. 専門コース教育科目	
国際協力群	馬淵
国際マネジメント群	崔
国際コミュニケーション群	加藤
3) Team Leader	
a1	Swenson
b1	Bramley
c1	稲田
c2	Hansen
d1	McCarty
d2	加藤

3. 図書館

1) 卒業研究支援

新聞記事、二次資料などのデータベースを整備するとともに、卒業研究クラスへのデータベース利用指導など、卒論テーマに関わる資料収集についての相談体制の整備を進めた。

2) 新図書館(仮称)建築計画

新図書館建築にむけて学院に建築委員会を設置し、設計施行業者を決定するなど計画を作業を進めた。

4. CALL 施設・設備の更新

CALL 関係施設は 2010 年 3 月に機器の全面更新を行い、大学エリアについて 401/403/404 教室および情報検索スペースに、基本ソフト Windows 7 と Office 2007 を搭載した端末 83 台、基本ソフト Mac OS 10.8 と Office mac2008 を搭載した端末 30 台を設置した。

IV. 教育目標の達成度と教育の効果

1. 授業の実施と学生の参加状況

2009 年度の開講科目・クラスの開講予定回数に対して、実際の実施回数は 96.3%であり、昨年度(96.1%)とほぼ同等であった。

全学生の、「卒業研究」を除く全授業への出席率の平均は 79.9%である。完成年度以降の推移は 83.1%(2007 年度)、82.4%(2008 年度)と下降線をたどり、80%台を割ることとなった。

これは、特に大阪を中心とした近畿圏において厳しい雇用情勢が続く中で、就職活動に膨大な時間を要することにより、4 年生の出席率が従来の 66.3-69.1%の範囲から 64.1%へ、3 年生が従来の 77.8-82.0%の範囲から 74.5%へ、いずれも下降していることが主因である。

1 年生が 88.3%、2 年生が 82.8%と従来と同等レベルの出席率を維持し、1・2 年次に一定の学習習慣を身につけながら、就職活動により後期 2 年間の学習に集中できない学生の状況が読み取れる。

2. 単位修得および卒業等の状況

2006 年度入学者数 174 名の所定年次における卒業有資格者は 124 名(対入学者数 71.3%)、退学者数は 16 名(9.2%)、卒業延期者数は 31 名(17.8%)である。なお、2009 年度は全国的な経済状況の悪化、近畿圏・大阪府下における雇用環境の悪化の中、就職活動を継続して行うことを希望する卒業有資格者に対する「卒業保留」の制度を設け、21 名(同 12.1%)がその制度を利用して在学している。卒業生 103 名(59.2%)の修得単位数平均は 129.4 単位である。

卒業研究は、各コースにより、英語論文、ポスターセッション(英語)、プレゼンテーション(英語)、同時通訳(日・英語)での学習成果の発表を行う。2009 年度における 161 名の受講生に対して、単位修得者は 149 名であり、その内訳は、A(80 点以上)が 51.7%、B(70 点以上)が 34.9%、C(60 点以上)が 13.4%であった。

退学 16 名の事由を見ると、就学意欲の低下 2 名、進路変更 7 名、就職 3 名、経済的困窮 1 名、身体疾患 2 名、育児 1 名となっている。

3. 学生の評価から見た教育成果

2009 年度末に実施した卒業生アンケートにおいて、「大学は学生の能力や個性を活かす機会を与えているか」との設問に対し、回答者 134 名の内、79.1%が「はい」と回答している。

教養教育と英語教育を統合した英語教育科目英語展開群において、2009 年度末に実施したアンケートにおいて、1 年生への「テーマについての関心や知識が広がったか」との設問に対し、回答者 150 名の内、59.2%が「広がった」と回答している。テーマ別に見ると、「平和の追求」54.6%、「科学と宗教」53.3%、「現代と人権」64.7%、「生命の危機」64.0%であり、春学期に実施する「平和の追求」「科学と宗教」の数値が低いことと、「科学と宗教」というテーマが学生にとって十分な理解が伴っていないことが読み取れ、教材や授業展開に工夫が必要であることを示している。一方、授業展開や予習・復習等の自主学習方法が定着する秋学期に展開する「現代と人権」「生命の危機」での数値が高いことと、日本語で行う集中授業「人権教育講座」を実施する時期をリンクさせている「現代の人権」での数値が最も高いことは、背景知識の導入や学習動機の立ち上がり、英語教育科目英語展開群の学習成果に影響していることを示している。英語運用能力については、読む力、話す力、書く力、聴く力の向上について、それぞれ 68.7%、46.0%、61.3%、65.3%の学生が「向上した」と回答している。1 年生であるため、話す力の向上にはまだ満足できていないことが分かる。しかし 2 年生に同様の設問をすると、読む力については 99 名の回答の内 80.8%、話す力については 72 名の回答の内 72.2%、書く力については 99 名の回答の内 76.8%、聴く力につい

ては 72 名の回答の内 93.1%の学生が「向上した」と答えている。

同じく、2 年生への「現在の世界の事情についての知識が増した」「同 関心が増した」との設問に対し、回答者 72 名の内、それぞれ 100%、98.6%が「そう思う」と回答している。

専門教育と英語教育を統合した 3・4 年次の専門教育展開群において、「この授業から新しい知識や考え方などを学ぶことは多かったと思いますか」の設問に対し、回答者延べ 309 名の内、98.4%が「そう思う」と回答している。同じく、「これまでの考え方が変化したことはありますか」の設問に対し、回答者 309 名の内、92.9%が「そう思う」と回答している。英語運用能力については、回答者延べ 309 名の内、85.1%が「向上した」と回答している。

2009 年度に実施した人権教育講座において実施したアンケートでは、参加登録者(四年制・二年制)365 名のうち 276 名(75.6%)が回答し、導入プログラムについて 67.0%、分科会について 93.1%が、「自分にとって意味があった」と答えている。また、2009 年度末に実施した卒業生アンケートにおいて、教養教育科目「人権・ジェンダー群」科目の学習について、回答者 134 名の内、62.7%が「よかった」と回答し、63.4%が「自分の力を伸ばすことができた」と回答している。

2009 年度末に実施した卒業生アンケートにおいて、「学生はリーダーシップ養成の機会に恵まれている」との設問に対し、回答者 134 名の内、74.6%が「はい」と回答している。また同アンケートで「理念に近いキーワード」を問うたところ、「他者への共感」「共生」「自律心」「勤勉」といったキーワードが、寄せられた回答数 125 件中 67 件あり、本学での学習や体験の中でのリーダーシップへの覚醒が意識されていることが判る。

4. 英語運用能力の伸び

2009 年度卒業生が卒業前に到達した平均点は、597 点であった。この得点を「TOEIC テスト DATA & ANALYSIS2008」により全国平均と比較すると、「日常生活の上で英語を使用する」割合が 51～100%の受検者の平均スコア 537 点を 60 ポイント上回り、語学・文学系(英語専攻)の大学 4 年生の平均 575 点を 22 ポイント上回っている。

全体の英語運用能力が入学時の平均 401 点から 196 ポイント伸びた結果は教育課程と学習支援システムによる学生の努力によるものであるが、3・4 年次の専門教育科目展開群を履修するための基準を、TOEIC600 点以上と想定していることから開きがあり、学習成果を上げるために、当該学科目の英語運用能力別クラス設定と履修指導に工夫をしている。

TOEIC 等の学外のテストを英語運用力の計測に利用することは、学習成果を一般社会のデータと比較できる反面、本学が進めるコンテンツベースの教授法による英語教育の学習成果全体を測定可能かどうかという懸念や、学生の英語コミュニケーション能力獲得の実感との差異があり、本学独自の新たな測定方法の開発を進めている。

5. 図書館の利用から見た教育成果

学生の学習姿勢の傾向を示す指標のひとつとして、図書館での館外貸出冊数の 1 人あたりの年間平均を見ると、2009 年度は 26 冊であり、これを日本図書館協会発行の「図書館年鑑 2009」による、国立大 9.4 冊、公立大 13.9 冊、私立大 7.4 冊と比較すると、本学学生の学習努力を一定示していると考えられる。しかし、従来の平均 32-34 冊を 20%程度下回る結果となった。

2 年次の 33 冊(2008 年度比 19 冊減)は、2008 年度カリキュラム改訂により、2009 年度から 2 年次の英語必修科目 Theme Studies の教育内容が変更され、春学期には小論文を作成せず、サマリーを仕上げることを目標として、1 年間を通した段階的な論文作成能力の育成を図ることとしたことに起因していると考えられる。

3 年次の 27 冊(2008 年度比 4 冊増)を除いて、4 年次における 24 冊(2008 年度比 8 冊減)、1 年次における 23 冊(2008 年度比 7 冊減)は、学生の学習や生活面での余裕のなさを表わしている。

6. 学外コンテストへの参加

第 43 回大阪市姉妹都市英語スピーチコンテスト

日時：2009 年 9 月 27 日（日）

会場：大阪国際交流センター

出場者：高木 郁美さん（3 年生）

V. 学生支援

1. 入学者の受け入れ

大学入試について、2010年度の入学者は、新入生 111 名、3 年次編入学生 11 名であった。

上半期(9 月末まで)資料請求者数は、1,013 人で、昨年から 97 人減であった。特に兵庫県では、8 月・9 月とそれぞれ10名減であった。オープンキャンパス動員数は、333 人であり、昨年から 61 人減であった。2009 年春季の資料請求者が伸びないまま6 月の新型インフルエンザの流行があり、7 月に挽回できなかったことが後々までひびいた。AO入試、公募推薦入試で入学生の多くを確保したい本学としては、春季まで遅くとも 9 月までの資料請求者に対して即応したアプローチが必要であった。

大学院入試については、リーフレット配布、NGO・NPO団体への広報、「国際協力ガイド」や「国際開発ジャーナル」への記事掲出、新聞各紙への連合広告掲出などの広報展開を行い、他大学から 2 名の入学生を迎えた。

1) 広報活動状況

掲載日	新聞社	掲載状況	記事内容
2009.9.23.(水)	読売(記事)	記事	大学 英語力を育てる
2009.9.26.(土)	THE DAILY YOMIURI	記事	大学関西フォーラム
2009.10.7.(水)	読売	全五段(広告)	英語力で、わたしが変わる。 英語力が、世界を変える。
2009.10.17.(土)	読売	全七段(広告)	英語力で、わたしが変わる。 英語力が、世界を変える。
2009.11.1.(日)	産経	記事	AO 入試で大阪女学院大学
2009.11.23.(月)	朝日	テレビ欄(広告)	確かな力が身につく大学
2009.11.28.(土)	読売・毎日・産経	半五段(広告)	同上
2009.12.9.(水)	読売	記事	入学前教育大学苦心
2009.12.26.(土)	読売	半七段(広告)	本気で、英語に取り組む大学 本気で、英語で取り組む大学
2010.1.17.(日)	産経・読売	半五段(広告)	特別給付奨学金制度を新設
2010.1.18.(月)	朝日	同上	同上
2010.1.24.(日)	朝日	同上	同上
2010.2.19.(金)	朝日	同上	同上
2010.2.20.(土)	読売	見開き三段(広告)	継続教育記事下広告
2010.3.21.(日)	毎日・産経・朝日	全 15 段(広告)	「真面目」力、開花宣言。
2010.3.22.(月)	読売	同上	同上

ほか、連合広告数回掲出

2) 入試説明会

a. 進学相談会

受験生との接触の機会をできるだけ多くもつことを目標として実施している(2009 年度 107 高等学校(うち模擬授業 42 回)、57 会場で開催。アドミッションセンターのほか、他部署スタッフも動員し、本学の教育内容を直接説明し、理解してもらうことに意を用いている。

b. 高校進路指導担当者、英語担当者への説明会

本学の教育内容を明確に伝達するための機会として、本学において実際授業を見学することに加えて、場所を変えて教育内容や方法を紹介する説明会を開催した。

<2009 年度入試実績>

会場名	開催日	出席数	主なプログラム内容
スイスホテル南海大阪	6 月 23 日(火)	16 名	公開授業 カリキュラムの特色紹介 教養教育の紹介、キャリア支援の紹介 進路実績の紹介、学生募集について
ホテルグランヴィア大阪	6 月 24 日(水)	19 名	
ホテル京阪京橋	6 月 26 日(金)	8 名	
ホテルグランヴィア大阪	6 月 30 日(火)	25 名	
ホテルグランヴィア和歌山	7 月 1 日(水)	6 名	

3) 高校訪問

近畿圏内の高校および受験実績のある圏外の高校を中心に、スタッフ(Teaching Staff と Management Staff)で担当校を設定して訪問した。訪問目的は、在学生の近況報告、直近の入試案内。2009 年度訪問校は延べ 262 高等学校。

今後の課題として、効果的な訪問展開を実施するため、地域別・高等学校進路指導別の訪問校および訪問時期の分類が必要である。

2. 事前学習

入試合格者には、入学後、本学での学習への取り組みをスムーズにするため、オリジナル教材(CD)等と課題図書を送付している。

AO 入試合格者には、大阪の歴史をとおして「体験・考える・対話・表現」をテーマに、エリア・スタディツアーを実施した。レポートやプレゼンテーションを課すことで、知ることの喜びや自分自身の成長を感じ、大阪女学院大学で学ぶ関心も深まった。英語に関しては、WEB 上でコミュニケーションをとりながら学べるように、週ごとの問題を提供する事前学習を実施した。

3. 学習支援

1) Self Access & Study Support Center: SASSC(学習支援センター)

SASSC(学習支援センター)は、学生が主体的に学習を進めること、本学の教員と接する機会を増やすこと、周りの学生と協力して学習すること、学習の振り返りを行うこと、学習時間を確保すること、意欲的な目標に挑戦すること、様々な考えや意見を尊重することを目的として、「Writing Center」「Tutoring」「English Speaking Lounge」「Vocabulary Building」「Grammar Exam Workshop」「Phonetics 理論・Exam Workshop」「Reading Exam Workshop」の 7 プログラムを行った。

a. Writing Center

Writing center は、Writing スキルの向上を目的として、英語ペーパーのテーマやアイデアの組み立て方・書式・添削の支援を行った。曜日・時間・担当者は以下の表のとおりである。

利用件数は、春学期 187 件(前年 194 件)、秋学期 215 件(前年 89 件)であった。この利用件数から本学においてペーパー課題が多いことと、課題を課した授業担当者が利用を促す案内をしたことが伺える。しかしながら、利用件数に対しての利用学生数を見てみると、一度利用した学生がその後も利用している傾向があることがわかった。今後はより多くの学生が利用することが望まれる。

春	時間帯	担当	秋	時間帯	担当
月	16:30-19:30	Merritt Aljets	月	16:30-19:30	Merritt Aljets
火	16:30-19:30	Jamie Anderson	火	16:30-19:30	Jamie Anderson
水	17:00-20:00	Brett Gross	水	17:00-20:00	Brett Gross
木	16:30-19:30	Craig Hagerman	木	16:30-19:30	Craig Hagerman
金	16:30-19:30	Craig Hagerman	金	16:30-19:30	Jamie Anderson
土	13:30-16:00	Jacobo Durbin	土	13:30-16:00	Gavan Gray

b. Tutoring

Tutoring は、本学での学習方法の理解を深めることを目的として、予習・復習の具体的な進め方等のアドバイスをを行った。曜日・時間・担当者(卒業生)は以下の表のとおりである。

利用件数が年度途中で 2008 年度と比較で減少したことがわかったため、10 月末より専任教員が担当している「Grammar-2」で課題を課し、Tutoring を利用する形式をとった。その結果、一日あたりの利用件数が増えた。

今後は自主的に Tutoring を利用する学生が増えることが望まれるが、教員が後押しをするような機会を提供し利用者数を増加させる必要がある。

春	時間帯	担当	秋	時間帯	担当
月	16:00-20:00	田仲 由美	月	16:00-20:00	田仲 由美
火	16:00-20:00	安本 有佳里	火	16:00-20:00	後藤 綾那
水	16:00-20:00	後藤 綾那	水	16:00-20:00	秋山 文圭
木	16:00-20:00	田仲 由美	木	16:00-20:00	梶 祐実
金	16:00-20:00	秋山 文圭	金	16:00-20:00	安本 有佳里

c. English Speaking Lounge

English Speaking Lounge は、積極的に英語を話すことによって学生の英語を発信する力の向上を目的としている。2009 年度は 2007 年度に選定された「特色ある大学教育支援プログラム(特色 GP)」の補助事業の最終年度として、従来行っていた夕方の English Speaking Lounge に加えて、新たに昼休みに English Speaking Lounge PAL を行った。曜日・時間・担当者(英語話者留学生、本学卒業生)の詳細は以下の表のとおりである。

固定化した学生のみが利用しており、利用者に広がりがなかった。新たに昼休みに行った English Speaking Lounge PAL の利用者も学生にとっては貴重な休み時間ということで増えた。

春	時間帯	担当	秋	時間帯	担当
月	16:30-19:30	Fermin, Tricia Abigail Santos	月	16:30-19:30	Fermin, Tricia Abigail Santos
火	11:45-13:45	大島茉莉奈ローレン	火	12:45-13:45	大島茉莉奈ローレン
火	16:30-19:30	Jenny Yoshizawa	火	16:30-19:30	Jenny Yoshizawa
水	16:30-19:30	Katerina Ono	水	16:30-19:30	Katerina Ono
金	11:45-13:45	秋山文圭	金	12:45-13:45	秋山文圭
金	16:30-19:30	Balga Nelia	金	16:30-19:30	Balga Nelia

d. Vocabulary Building

Vocabulary Building は、The Academic Word List の 570 語を身につけることという目的から、Integrated Units テキストに関する単語を身につけることに目的を変更し、一週間に一度新しい Word List を配付する形で行った。今後は利用者数の増加のために一層の工夫が必要である。

e. Grammar Exam Workshop

Grammar Exam Workshop は、基本的な文法の再確認を行い定着を図ること、テキストの文法項目を異なる角度から復習することを目的とし、定期試験前に Grammar 担当の専任教員が行った。

利用件数は、春学期 118 件、秋学期 103 件であった。

f. Phonetics 理論・Exam Workshop

Phonetics 理論・Exam Workshop は、Phonetics の理論理解のための総復習をすることを目的とし、定期試験前に Phonetics 担当の専任教員が行った。

g. Reading Exam Workshop

Reading Exam Workshop は、パラグラフやエッセイの構造、アウトラインの形式、エッセイの内容理解、Transition (つなぎことば) の用法、Summary の復習、Rhetorical pattern の理論と判別の復習することを目的とし、定期試験前に Reading 担当の専任教員が行った。

2) Study Skills & Tips at OJC-学びの手引き-の発行

学習サポート委員会が 2008 年度に実施した「学生の学習意識・実態基本調査」の結果、「大学での学び」のあり方を十分に理解していない学生がいることがわかったので、高等学校と大学での学びの違い、英語学習の四技能「読む・聴く・書く・話す」、ペーパーの書き方、プレゼンテーションの方法、それらの根底に必要な思考力・論理力を高める方法などをまとめた「Study Skills & Tips at OJC-学びの手引き-」を作成し、全学生を対象にオリエンテーションで配付、説明を行った。今後は学生がこの手引きを効率的に利用した学習指導・相談のサイクルを構築する。

3) TOEIC 英語集中合宿

TOEIC 英語集中合宿は、2 年生のうち、比較的英語運用力が伸び悩んでいる学生を対象に、朝から夜まで集中的に学ぶことにより弱点を克服し長所を伸長させることと、専門教育展開群の履修資格を得ることを目的として行った。

今年度は、石清水八幡宮 青少年文化体育研修センターにおいて 2010 年 2 月 22 日(月)～25 日(木)の 4 日間の日程で実施した。8 名の本学専任教員の指導により、2 名の学生 Tutor が補助をして 2 年生 31 名が参加した。

4. 学生生活支援

1) 学友会活動支援

学友会活動について学生サポート推進部は「助言と協力」を基本姿勢に、学友会活動に関するオリエンテーションを実施した。2009 年度の活動方針を確認し、年間の活動計画として大学祭行事やアルバム撮影、カレッジリングなどのイベント企画の構成などに関わった。

また、執行部員の勧誘から学友会執行部と定例会を行い、日々の活動を把握しながら、リーダーシップの育成に努めた。年度末には 1 年間の活動のふりかえりを行い、新執行部への引継ぎを行った。

2) 学友会活動と状況

執行部の構成は、大学 2 年生 9 名、大学 1 年生 18 名、短期大学 2 年生 5 名、短期大学 1

年生 3 名と、2009 年度は 40 名近くの組織となった。ここ数年は、大学生の執行部員が増えて、短期大学生の執行部員が減少している。四大生の人数が多い為、就職活動や編入学試験などで時間のとれない短期大学生を四大生がカバーして業務に支障はなかった。

学生の自治組織としてのリーダーシップを学友会執行部の活動の中に育み、いわゆる「サークル活動」とならない為に、大学がいかに学友会執行部と関わっていくかが課題である。

3) 大学祭について

学友会執行部が主催する大学祭は、「素敵女子 1・2・STEP」と題して行われた。

大学祭の活性化を目指して、グラウンドに野外ステージを設営しステージイベントや、本学院創立 125 周年講演が実施された。2009 年度より併設中学・高等学校が土曜日の授業を再開したことから、初日は午後まで一般入場を規制することとなり、実質は 1 日半の実施であった。また、エコプロジェクトとしてのリユース食器利用は今年が 3 回目となり定着した。前述の野外ステージの設営や大学祭のプロデュースを企画会社に依頼し、大学祭をよい思い出として印象付けるようなディスプレイや企画を実施した。食べ物販売する模擬店は多いが、大学生としての学習・研究・活動に関わる展示企画や催しは少なく、単なるお祭りとししない動機の立ち上げが課題である。

4) 課外活動

今年度、活動しているクラブ・同好会は以下のとおりである。

名称	部員数	活動回数
ダンス部	20 (22)	125
ゴスペル部	9 (10)	80
Amigos de Apple 部	— (—)	36
フォークソング部	5 (16)	253
空手部	11 (11)	58
合気道部	4 (4)	14
バレーボール部	7 (9)	29
茶華道部	16 (16)	20
バスケットボール部	13 (16)	29
野球部	6 (6)	6
お洒落部	6 (7)	—
アルトス部	6 (7)	—
チアリーディング部	7 (8)	110
バトミントン部	— (—)	20
ボランティア部	— (—)	14
美術部	3 (3)	—
フットサル部	6 (6)	23
ブラスバンド部	9 (11)	94
地球技部	— (—)	12
写真部 (青いレンズの会)	9 (12)	5
沖縄同好会 (ニライカナイ)	1 (5)	—
フェアトレード同好会 (PEACE)	— (—)	14

表中、() 内の数字は併設短期大学の学生との合計人数

「—」の表記は、未確認

5) 奨学金受給状況

奨学金募集は、春学期 3 回、秋学期 2 回と昨年度よりも説明会回数を増やして応募機会

を設け、本学の奨学生採用に関する方針と応募方法について説明をした。奨学生の選考は、生活サポート委員会による。2009年度、新たに採用された奨学生者数は以下のとおりである。小野奨学会奨学金は2008年度よりも多くの推薦枠が得られた。

また、2009年度卒業生対象に奨学金返還の説明会を2回実施して、早期手続に努めた。

	有資格者	採用数
予約奨学生(日本学生支援機構)	—	52 名
定期採用(日本学生支援機構)第一種	20 名	8 名
定期採用(日本学生支援機構)第二種	31 名	25 名
定期採用(学内貸与奨学金)	24 名	11 名
定期採用(学内支給奨学金)	18 名	2 名
小野奨学金	5 名	5 名
小野奨学金(大学院)	1 名	1 名
その他の奨学金	—	0 名

5. 進路支援(キャリアサポートセンター)

1) 活動の概要

1990年代の就職氷河期時代にも増して、2008年9月の、いわゆるリーマン・ショック以降、2009年度も引き続き採用環境は厳しく、2010年3月の卒業生に至っては求人倍率1.62倍、大学就職内定率(2010年2月厚生労働省調査)では、80.0%と、不況による企業の経営環境悪化により、非常に厳しい状況であった。

キャリアサポートセンターでは学生一人ひとりへのきめ細やかなカウンセリングを通じて、企業への適性や経営状況を含む企業研究を徹底させる取組を行った結果、82.9%(就職先決定者87名/就職希望の卒業生105名)^{注2}の就職率となり、全国平均を少し上回った。又、継続して就職活動を行うために卒業を留保した学生24名に対しては、3月に就職活動支援特別セミナーを設定した。きめ細かな指導をするため、2クラス編成とし3日間にわたって実施した。

注2 卒業生124名の状況(就職87名、自営業1、アルバイト1、留学・ワーキングホリディ・海外移住5、専門学校4、結婚・家事手伝い3、就職未定18、大学院進学準備2、資格取得準備1、その他2)

2) 具体的な取組

a. 職業意識醸成とキャリア形成支援のために(主として低学年生対象)

しごとセミナー

将来の職業についての認識を高めさせるため、エアライン業界、公務員、国際貢献などの仕事紹介と、それらの職業に就くためにどのような準備が必要か・・・をテーマとしたセミナーを6月～11月にわたって6回実施した。

b. 就職ガイダンス(3年生対象)

6月～12月、大学3年生を対象として就職ガイダンスを12回シリーズで開催した。就職ガイダンスは以下のポイントに重点をおき、主としてキャリアサポートセンターのスタッフがインストラクターとなって実施した。依然としてガイダンス出席率の低い学生が就職活動で結果を出せないという現状もあり、ガイダンスの内容の見直し及び出席率を上げる策を検討する必要がある。

＜就職指導のポイント＞

- ① 企業から選ばれると同時に、こちらも企業を選ぶ視線をもつこと。
- ② 女性が長く働き続けることができる制度と文化をもつ企業を選ぶこと。
- ③ 学生一人ひとりの主体性を尊重する。

c. 卒業留保生の支援

次年度も大学に在籍し、就職活動を続ける学生に対して、2009年度の3月に急遽特別支援セミナーを実施し、新年度4月以降にも、特別支援セミナーなど、卒業留保する学生に対しての支援策を打つ必要がある。

3) 2009年度卒業生の就職状況

就職希望者の2010年4月末現在の就職先決定率は82.9%で、企業の採用手控えという厳しい環境であった。

一方、就職希望率(卒業生総数に占める就職希望者の割合)は84.6%となるが、卒業を留保した学生数は含めていない。一概に断定できないまでも、フリーター、ニート予備軍となることも想定されることから、組織的に学生(卒業生)の進路を把握し、学生の就職を支援するシステムづくりが今後の課題である。

VI. 研究

1. 機関リポジトリの構築

教職員、学生の教育・研究、学習成果を収集・整理・保存してウェブで外部に発信する機関リポジトリの構築準備を進めた。研究活動報告などを含む短期大学紀要のデータを収録した。

2. 研究活動委員会関係

1) 紀要発行

『大阪女学院大学紀要』第6号(2010年3月1日発行)

(執筆者:専任教員 3名 非常勤講師 4名 本学専任教員との学外共同執筆者 1名)

2) 研究会の実施

下記のとおり、学内研究会を実施した。

外部講師を招いての研究会(今年度は中止)

学内講師による研究会

実施日:2010年3月9日(火)14:00~16:00

場 所:本学 会議室I

対 象: 大学・短期大学 専任教職員、学生

(内 容)

題 目:平和ワークにおける芸術アプローチ

講 師:大学准教授 奥本京子

題 目:Achieving Immortality

講 師:大学教授 Steve Cornwell

題 目:古代キリスト教思想家オリゲネスの神学について

講 師:大学准教授 梶原直美

3. 専任教員の研究活動

1) 専任教員の自己申請により、『紀要』巻末には当該年の研究活動歴が個人別に[I.著訳書、II.学術論文、III.その他の著作(報告、雑誌、新聞等)IV.学会発表、V.その他の発表(シンポジウム、講演、放送等)、VI.学会および公的な機関の委員、VII.科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究]順に報告されている。

2) 教員の研究業績は、ホームページ上に公開している。

4. 科学研究費補助金受給状況

1) 研究代表者:Scott Johnston(教授) 連携研究者:Steve Cornwell(教授)

研究種目: 基盤研究(C)

研究期間: 2007年度~2009年度

研究課題： 大学ライティングセンターの構築と運営に関する研究—EFL の視点から
補助金額： 2009 年度 117 万円(直接経費 90 万円・間接経費 27 万円)

2) 研究代表者：元 百合子(准教授)

研究種目： 基盤研究(C)
研究期間： 2008 年度～2010 年度
研究課題： マイノリティ女性に関する政策と制度の比較研究-複合差別の視点から
補助金額： 2009 年度 65 万円(直接経費 50 万円・間接経費 15 万円)

3) 研究代表者：前田美子(准教授)

研究種目： 基盤研究(C)
研究期間： 2009 年度～2011 年度
研究課題： 教員の不正行為に関する研究-カンボジアを事例として
補助金額： 2009 年度 156 万円(直接経費 120 万円・間接経費 36 万円)

4) 研究代表者：手嶋英貴(非常勤講師)

研究種目： 基盤研究(C)
研究期間： 2009 年度～2011 年度
研究課題： 南インドにおけるブラーマン文化の現在：ケーララ州ブラーマン宗家の事例を中心に
補助金額： 2009 年度 130 万円(直接経費 100 万円・間接経費 30 万円)

5) 研究分担者：香川孝三(教授)

研究種目： 基盤研究(B)
研究期間： 2007 年度～2009 年度
研究課題： アセアン諸国における中小企業のグローバル化対応促進型制度構築の学際研究
研究分担金： 52 万円(直接経費 40 万円・間接経費 12 万円)

6) 研究分担者：香川孝三(教授)

研究種目： 基盤研究(B)
研究期間： 2007 年度～2009 年度
研究課題： 「子どもの安全保障」の国際学的研究 子どもの日常性の回復をめざして
研究分担金： 3.9 万円(直接経費 3 万円・間接経費 9 千円)

7) 研究分担者：香川孝三(教授)

研究種目： 基盤研究(B)
研究期間： 2008 年度～2010 年度
研究課題： 東アジア諸国における労働法整備支援と労働契約法制の展開
研究分担金： 45.5 万円(直接経費 35 万円・間接経費 10.5 万円)

8) 研究分担者：元百合子(准教授)

研究種目： 基盤研究(C)
研究期間： 2008 年度～2010 年度
研究課題： アジア・太平洋地域の大学院「人権プログラム」の学際的調査・研究
研究分担金： 13 万円(直接経費 10 万円・間接経費 3 万円)

9) 研究分担者：東條加寿子(教授)

研究種目： 基盤研究(C)
研究期間： 2009 年度～2011 年度

研究課題：理工系口頭発表コーパスに基づいた専門日本語・英語の教育法の開発
研究分担金：39 万円(直接経費 30 万円・間接経費 9 万円)

5. 学会および公的機関の委員

本学ティーチングスタッフが担っている学外での主な役割は以下のとおりである。

智原 哲郎

(1) 初年次教育学会 理事 2009 年 9 月まで

Cornwell, Steve

(1) JALT Co-Conference Chair for JALT2009 International Conference, Plan and Chair conference, 2009 年 11 月 21 日～23 日

(2) The Language Teacher Editorial Advisory Board, Review manuscripts for publication, 2009 年

(3) The JALT Journal, Editorial Advisory Board, Review manuscripts for publication, 2009 年

井上 文彦

(1) 関西いのちの電話 理事 2006 年 10 月～

香川 孝三

(1) 日本労使関係研究協会 常務理事

(2) 日本ジェンダー学会 副代表

(3) 日本労務学会 理事・学会誌編集委員長

(4) アジア法学会 理事

(5) 兵庫県労働運動史編纂委員会 委員長

(6) IMF・JC 労働リーダーシップコース 副校長・運営委員

(7) NPO 法人アジア・ボランティアセンター 副代表・理事

(8) 京都生涯教育研究所 理事

(9) 社団法人関西国際産業関係研究所 理事

(10) 竹文化振興協会 理事

(11) 宝ホールディングス株式会社 監査役

(12) 宝酒造株式会社 監査役

(13) Asia Association of Labour Law, Member of Executive Council

梶原 直美

(1) キリスト教学校教育同盟 大学部会関西地区委員 1998 年 4 月より現在まで

(2) キリスト教学校教育同盟 中央教研委員 2002 年 4 月より現在まで

(3) 全国大学チャプレン会 理事 2009 年 7 月より現在まで

垣本 充

(1) 日本ベジタリン学会 理事長

(2) NPO 法人日本ベジタリン協会 代表理事

(3) ベジタリンジャーナル 編集長

(4) (社)環境情報科学センター 環境情報科学査読委員

(5) International Vegetarian Union, U.K., Patron

(6) Asia Vegetarian Union, Thailand, Director

(7) Vegetarian Research, Honorary Editor

(8) Journal of Environmental Information Science, Reviewing Committee

加藤 映子

- (1)言語科学会 運営委員

黒澤 満

- (1)日本軍縮学会 会長 2009 年 4 月より
(2)世界法学会 理事
(3)核物質管理センター 理事
(4)日本国際問題研究所軍縮・不拡散促進センター 客員研究員
(5)長崎市平和推進専門会議 委員
(6)Editorial Board of the Nonproliferation Review, member
(7)核戦争防止医師会議大阪府支部 特別顧問

馬淵 仁

- (1)異文化間教育学会 理事
(2)日本国際文化学会 常任理事・紀要編集委員
(3)オセアニア教育学会 紀要編集委員

元 百合子

- (1)反差別国際運動日本委員会 企画運営委員

奥本 京子

- (1)国際トランセンド コンビナー(東北アジア地域代表) 2006 年 現在に至る
(2)トランセンド(平和的手段による紛争転換)研究会 会長 2008 年 11 月 24 日 現在に至る
(3)非暴力平和隊・日本 理事 現在に至る 2005 年 3 月 13 日
(4)日本平和学会 平和と芸術分科会設立・責任者 現在に至る 2005 年 6 月 4 日
(5)財団法人大阪国際平和センター(ピースおおさか)
企画運営委員(展示専門部会) 2007 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日
同上 2009 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日
(6)財団法人大阪国際平和センター(ピースおおさか)
運営協力懇談会委員 2007 年 8 月 12 日～2009 年 8 月 11 日
同上 2009 年 8 月 12 日～2011 年 8 月 11 日
(7)日本平和学会第 18 期企画委員会委員 2008 年 1 月～2010 年
(8)日本平和学会 分科会責任者連絡会議 副世話人 2009 年 6 月～2011 年 6 月
(9)NARPI(Northeast Asia Peace Research Institute)
運営委員会(Steering Committee)委員 2009 年 現在に至る

関根 秀和

- (1)大学教育学会 常任理事
(2)近畿都市学会 評議員
(3)キリスト教文化学会 理事
(4)大学設置・学校法人審議会運営委員会委員・大学設置分科会 特別委員
(5)大学評価・学位授与機構評議員・短期大学評価委員会 委員
(6)国立大学法人評価委員会 専門委員
(7)私立大学等経常費補助金特別補助検討委員会 委員
(8)私学研修福祉会私立大学の教育・研究充実に関する研究会運営委員会 運営委員
(9)短期大学基準協会 副理事長・第三者評価委員会委員長
(10)日本私立短期大学協会 副会長
(11)大阪私立短期大学協会 会長

(12)大阪府男女共同参画財団 理事

Teaman, Brian

- (1) Toyota City, Foreign Citizen's Council Representative, June 2009–Present
- (2) JALT Computer Assisted Language Learning SIG, Program Director, November 2009–Present
- (3) JALT Global Issues in Language Education, Web Co-Director, November 2009–Present

6. 国際共生研究所

1) シンポジウム・講演会

大学院・研究所開設記念シンポジウム「女性と人権」

日程 2010 年 10 月 21 日
基調講演 「女性の人権ー平等・発展・平和をめぐるー」
 講師 林 陽子(弁護士、国連女子差別撤廃委員会)
パネリスト 林 陽子
 秋林こずえ(立命館大学国際関係学部准教授)
 阿久澤麻理子(兵庫県立大学 環境人間学部准教授)
 元 百合子
出席者 62 名(講演者・招待者 30 名 学内 32 名)

講演会第 1 回 「看護師・介護士受け入れ-フィリピンと日本を結ぶ視点」

日程 2010 年 10 月 16 日
講師 小ヶ谷千穂(横浜国立大学教育人間科学部准教授)
出席者 33 名 (学内 17 名、学生 13 名、一般 3 名)

講演会第 2 回 「本名は民族の誇り」(講師都合により中止)

日程 2010 年 1 月 29 日
講師 金容海(在日本大韓民国中央本部民族教育委員)

講演会第 3 回 「教育改革を促進する e-learning」

日程 2010 年 2 月 26 日
講師 冬木正彦(関西大学環境都市工学部教授)
出席者 27 名(学内 17 名、学生 1 名、一般 9 名)

講演会第 4 回 「非武装のPKOの可能性～非暴力平和隊・国際事務局長が語る～」

日程 2010 年 3 月 4 日
講師 ティム・ウォリス氏(非暴力平和隊 国際事務局長)
出席者 27 名(学内 7 名、学生 8 名、一般 12 名)

2) 各プロジェクトの研究会報告

プロジェクト 1「社会的公正に基づく共生の研究」研究会

第 1 回 「NPT再検討プロセスと核軍縮」

日程 2008 年 7 月 22 日

報告者 黒澤満教授

第 2 回 「労働CSRの世界的潮流とアジア」

日程 2008 年 9 月 30 日

報告者 香川孝三教授

第 3 回 「宗教と人権」

日程 2008 年 11 月 18 日

報告者 元百合子准教授

第 4 回 「途上国における教員養成の現状と課題」

日程 2009 年 1 月 13 日

報告者 前田美子准教授

第 5 回 「多文化・異文化リテラシーにおける「文化」のとらえ方」

日程 2009 年 4 月 24 日

報告者 馬淵仁教授

第 6 回 「東北アジアにおける平和共同体創造実現に向けて:芸術アプローチの導入と、
「朗読劇プロジェクト」の提案」

日程 2009 年 6 月 26 日

報告者 奥本京子准教授

第 7 回 「ヨーロッパ発「多言語主義」とアフリカの多言語状況一言語権の視点から」

日程 2009 年 7 月 24 日

報告者 米田信子大阪大学准教授

第 8 回 「オバマ政権の核軍縮・核不拡散政策の背景 ー国際共生の観点からー」

日程 2009 年 10 月 16 日

報告者 黒澤満教授

第 9 回 「バングラデッシュにおける船舶解体と児童労働」

日程 2009 年 12 月 15 日

報告者 香川孝三教授

第 10 回 「マイノリティの人権としての民族教育権」

日程 2010 年 2 月 2 日

報告者 元百合子准教授

プロジェクト2「高等教育における英語教育の方法研究」研究会

第1回「英語教育の方法論を模索する:e-Learning とジャンル分析」

日程 2009年11月18日

報告者 東條加寿子教授

プロジェクト3「外国人児童生徒のための言語教育モデルの研究」研究会

2009年度は実施していない

3) 刊行物等

研究所リーフレットの発行	2009年6月	800部
RIICC ホームページ開設	2009年7月	URL: http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/RIICC
ニュースレターの発行	2010年1月15日	創刊号 2000部

7. 研究費の利用状況

大阪女学院大学の専任・特任教育職員の研究活動に資するため、個人研究費と、特定の課題について共同して行う研究を助成する共同研究費を設定している。

個人研究費は、専任教員に対して年間50万円(旅費:20万円、旅費以外:30万円)、特任講師に対して年間20万円(内訳の設定なし)を限度に個々人に支給される。共同研究費については、審査を経て採否と金額が決定される。

2009年度は個人研究費のみが執行され、利用の傾向は2008年度とほぼ同等である。

予 算 :	1,450 万円
使用総額:	1,008 万円(執行率 69.5%)
内訳	
旅費・参加費	381 万円(38%)…うち、海外旅費は 107 万円
消耗品費	352 万円(35%)
諸会費	111 万円(11%)
支払報酬	69 万円(7%)
機器備品費	63 万円(6%)
その他	32 万円(3%)

VII. 社会的活動

1. 公開講座

市民・学生対話シリーズ「和解への対話 ―東アジアに聴く・視る・識る」(第五回)全2回 Vol.1・2を2010年1月10日(日)&11日(祝月)の2日連続で本学院ホールチャペルにおいて開催。

「和解への対話 ―東アジアに聴く・視る・識る」(第五回)

本プログラムは、イデオロギーやナショナルなシステムからではなく、生活世界の相互理解による和解を探って、回を重ねて5回に至る。このあたりで一度、振り返り、次への課題を確認するためにも、テーマを第一回と同じく、再び「故郷」に置くこととした。

下記の通り、少しずつ視点の異なる3人の在日韓国・朝鮮の方々から「故郷」を語っていただき、また、これまでとは異なった視点から歴史がどう見えるのか、そういう視点にどのような可能性があるのかを、いま一人の方から解き明かしていただいた。

アンケート自由記入からも、参加者の方々の中に、新しい理解と新しい気づきが相互に立ちあがり、さらに、日本を故郷とする私たちから、砕けた心で和解を求めることの大切さを共有する場となったことが伺える。

初日の映画上映は、プロジェクターの故障により中止となり、3月13日(土)に大阪クリスチャンセンターにて再上映会を開催した。会場の施設設備のメンテナンスは、今後の課題のひとつである。

読売新聞大阪本社などの後援を得て、今回も参加者は2日間で1,000名を超えた。地域貢献を主旨としているが、近畿圏外からの参加者もあった。

第1回目から数えて、のべ26名のゲストの方々はもとより、多くの方々にご支援いただき、2005年度からスタートしたこのシリーズは、ひとまず恵のうちに終了した。記して感謝する。

1) プログラム

出演者 (敬称略)

ヒョン ムアン
玄 武岩(北海道大学大学院准教授)

ムン ソン
徐 勝(立命館大学教授 同大学コリア研究センター長)

カン サンジュン
姜 尚中(東京大学大学院教授)

おおぬき たかし
大貫 隆(自由学園最高学部教師)

Vol.1 2010年1月10日(日) 13:00 大阪女学院ホールチャペル

講演 1 徐 勝

2 玄 武岩

対談 徐 勝 玄 武岩

上映『男はつらいよ 寅次郎紅の花』

(監督:山田洋次 1995年 107分)

Vol.2 1月11日(祝 月) 13:00 大阪女学院ホールチャペル

講演 1 姜 尚中

2 大貫 隆

対談 姜 尚中 大貫 隆

上映『チョンおばさんのクニ』(監督:班忠義 2000年 90分)

総合司会 中垣 芳隆(本学学長代行)

対談進行 関根 秀和(本学学長)

2) 参加者数

	Vol.1	Vol.2	合 計	*映画再上映
参加者数	342	665	1007	130

*3回上映ののべ人数

3) 編集記事掲載

読売新聞大阪本社
2010 年 2 月 20 日(土)朝刊(28・29 面)

4) 後援・協力等の行政機関及び団体名

読売新聞大阪本社 国際交流基金関西国際センター
大阪府教育委員会 大阪市教育委員会

協 力 京都シネマ
作品提供 松竹株式会社 株)シグロ

2. 高大連携

2009 年度高大連携活動は 111 件 104 校で実施した。

プログラム

模擬授業	42 件
進路全般講話	7 件
外国語・国際分野	23 件
学校説明	22 件
職業関連	11 件
大学コンソーシアム	1 件
大学見学(市立中央高校)	1 件
短大進学者への受験対策	2 件
面接指導	1 件
オーストラリアへの語学研修者への事前研修	1 件

連携プログラム実施校

大阪府立高校	40 校
大阪市立高校	4 校
大阪私立高校	21 校
京都府立高校	5 校
兵庫県立高校	13 校
兵庫私立高校	3 校
和歌山県立高校	5 校
奈良県立高校	6 校
奈良私立高校	2 校
鳥取県立高校	2 校
徳島県立高校	1 校
岡山県立高校	1 校
岡山私立高校	1 校
大阪女学院高校	2 件

VIII. 管理運営

1. 組織体制

本学の教授会は、2004 年度以来、学校教育法施行規則第 66 条の二に基づいて、教授会規程及び関係規程を定めた上で、教育研究および運営に関わる事項について審議してきたが、2008 年度に新しい組織体制を導入した。2009 年度には、前年度の組織運営状況とともに、本年度に決定された理事会組織の改革も踏まえ、更なる体制改革を推進した。

また、本学は二年制・四年制を一体の組織と考え、所属や担当科目の如何にかかわらず、それぞれの事業計画や課題への取組みについて共に検討する場としている。

今年度は、校務に関する諸事項を 8 つの部署で分担し^{注3}、各委員会の活動を取りまとめた。さらに、この 8 部署の運営を迅速に進めるため、基本的には、昨年設定したディレクターボードと副学長会を統合する形で、ディレクターミーティング(以下、DM)^{注4}を設定した。大学運営に係る意思決定事項を、①DMで基本となる考え方や方針を整理の上、教授会で審議・決定を行う事項と、②DM自体が運営に関する決定を行う事項に分類した。

注 3 大学教育研究推進部、国際交流センター、学生サポート推進部、運営管理部、学長室、継続教育センター、研究所、教員養成センター

注 4 構成する人員は以下のとおり

学長、学長代行、副学長、学長補佐、ALO、CLC、部長など計 22 名

2. 運営管理組織の整備と取り組み

2008 年度までの体制を基本にしつつ、2009 年度は学長の構想に基づき意思決定体制を再整備した。教授会メンバーの中から 22 名を選出しディレクター・ミーティング(以下「DM」という)を組織し、教授会規程に定められた審議事項の一部について、DMが審議行なうことと定め、教授会での審議事項についても、原則としてDMが予めその審議内容について検討した上で教授会に提出されることとした。これにより、審議あるいは重要事項の報告を小まめに検討・実施することが可能となり、学校運営に関する意思決定が迅速に行えるようになった。

加えて、中期的な視点に立った本学運営方針を企画し、業務運営状況を評価する部署として、学長室会を新たに設定した。

また、日々の業務の進捗に対して、プロセス管理・報告、改善への勧告、勧告の遵守を推進するコントローラー(学長補佐)2名を設定した。

これらの体制の整備により、今年度 1 年間の大学・短期大学部門の業務にPDCAの仕組みを確立することによって、事業計画の遅延等のリスクを極小化し、自己点検の結果を踏まえた組織運営の改善のための取り組みに結びつける、継続的な内部質保証システムを機能させようとしている。

3. 危機管理

1) ID カード

学院敷地内の安全を担保するために、学院全体でスタッフの ID カードの携行を始め、専任職員についてはほぼ全員が携行するようになった。しかし、特に兼任講師を中心として、教員への徹底が不十分であるため、2010 年度からは、キャンパス立ち入り時点で ID カードの提示を義務付けることとした。ただし、学生を識別する有効な手段がないため、IC チップ入り学生証の活用など、技術的な可能性を今後検討する。

2) 安全避難訓練について

例年どおりの手順で災害緊急時(本館2階のトイレ付近からの火災を想定)の避難経路を確認す

ることを主に、安全避難訓練を実施し、グラウンドでの消火訓練では多くの学生が積極的に参加した。一年生は、アセンブリーの時間で出席者数を一定確保したが、授業がない 3・4 年生の参加が少なかった。

避難・消火訓練の後、中央消防署員により、AEDの使用に関する講習が実施され、職員や学生の有志約 10 名による実技演習が行われた。過去の実例を踏まえた具体的な対応について説明や質疑応答があり、学校内だけでなく通学途中の心がけなどについて意識が高まった。

3) 新型インフルエンザ対応について

新型インフルエンザの流行に対処するため、1週間の休講に加え、女学院全体の施策の一環として、非常勤講師や派遣社員を含む教職員全員に対して予防接種を勧奨し、教職員が病気の発信源とならないよう働きかけた。また、学生に対しても注意を強く喚起するとともに、教職の実習予定者や海外渡航予定者などに対する予防措置を推奨するとともに、発症した学生に対し出席・登校・課外活動を禁ずる一方、欠席により当該学生が学業・評価上の不利益を被らないためのルールを設定し運用を始めた。

IX. 財務

1. 補助金の獲得

2009 年度の、私立学校振興・共済事業団を通して得られた公的補助金の獲得額は一般補助 79,927 千円(前年度 74,609 千円)、特別補助 37,920 千円(前年度 46,743 千円)の計 117,847 千円(前年度 121,352 千円)であった。2009 年度から配分方式が変更された「特別補助」の比率は 32.2%となっている。

上記の他、最終年度となった特色 GP 補助金として 1,550 千円の受給を受けた。また、2009 年度に新たに「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム(学生支援GP)として、「戦略的就職支援システム導入による就職サポートサービスの充実化」の取組を短期大学と共同で申請し、採択され、総額で 7,011 千円の補助金を受給している。

なお、本学が採択を受けていた競争的な特別補助金の支給年限(3 年間)が概ね 2008 年度で終わり、また、私立学校振興・共済事業団を通じた競争的補助金制度が廃止となったことにより、今後、私立学校振興・共済事業団を通しての特別補助額の上積みは見込むことができない。今後は、文部科学省を申請窓口とした新たなGP等競争的補助金の獲得が課題である。

2009 年度に本学が受給した事業は以下のとおりである。

1) 教育・学習方法等改善支援経費(競争的特別補助金)

- a. 人に関わることの意味と自らの内にある生きる力に気づくリトリートの取り組み
- b. 異なりを越えて共生を考える「人権教育講座」の取り組み

2) 特色ある大学教育支援プログラム

英語を教育言語とする学士課程の展開-教養教育・専門教育・専門実務教育と英語教育の統合-

3) 「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム

戦略的就職支援システム導入による就職サポートサービスの充実化

2. 財収改革

従来、募金活動は、卒業生とその関係者を対象とした「ウキルミナ・サポート教育環境整備寄付金」と新入生保護者を対象とした「教育環境整備支援特別寄付金」の 2 寄付金募集を実施してきた。しかし、2009 年度は 125 周年記念募金運動との重複感がでないようにするため、学院全体の募金活動に統合し、大学独自で特別な募金活動は行わなかった結果、約 90 万円の実績となった。

X. 改革・改善

1. FD・SD

ティーチングやアドミニストレーションに必要なプロフェッショナルとしての幅広い職能を開発すること、さらには、掲げる教育目標を現実には翻訳し、これを実現する組織を開発すること。前者は「個人の教育力」を高める努力であり、後者は「組織の教育力」を強める取り組みである。FD・SD 活動はこれら両面において不断に展開することが求められている。

本年度は、今日の多様化(価値観、能力など)する学生を前に、どのような学習目標や方法を設定し、期待する成果を上げるか。学士課程教育の根幹をなす「Learning Outcomes」に主眼を置き、授業改善の工夫について研究協議の機会を設けた。学生の参画(6 名出席)を得たのは今回がはじめて。次年度は成果の確認、そのための評価指標・評価基準の設定について学ぶ計画をもっている。

2. 各種調査

各授業の達成度や各年次の学習生活・学生生活の状況を把握するために、年間を通して下記の調査を実施した。これらの集計結果は、前述の教育組織(各授業担当者及び担当委員会等)での検討資料としている。

1) 意識調査(4 月)

新入生意識調査

2) 満足度調査(2 月)

1 年生キャンパスライフ・アンケート、チュータリング・アンケート、ライティングセンター・アンケート、図書館利用調査、4 年修了時アンケート

3) 学生による授業評価

1 年次英語統合科目(6 月、7 月、11 月 2 月)
全科目・クラス(2 月)

2009年度大阪女学院法人事務部事業報告書

I. 法人管理運営の推進

法人組織の変革を目的として改訂した学校法人大阪女学院寄附行為（2009年5月25日
文部科学省認可）に基づいて、法人の管理運営を行った。

1. 理事会、評議員会、学院運営会議の開催

（1）理事会開催

寄附行為（2009年5月25日文部科学省認可）第7条により、選任された理事15
名によって、理事会を9回開催した。監事は全ての理事会に出席した。

理事会構成員（15名）

関根秀和（理事長） 船木徳枝 長谷川洋一 河内鏡太郎 好田豊作 中垣芳隆
錦織一郎 西村耕 杉山謙治 玉利道子 寺岡国一 寺崎昌男 安田信人

以上の理事は、5月25日就任

草原克豪（5月27日就任） 石田忠範（6月16日就任）

監事：時岡禎一郎（6月16日就任） 森本晴生（8月4日就任）

石田忠範（6月15日退任） 蔭山淳（8月3日退任）

第1回

日 時：2009年5月26日（火）16：50～ 会場：KKR ホテル

出席者数：12名 監事2名 陪席者5名

議 事：① 理事長選任の件

第2回

日 時：2008年5月26日（月）18：00～ 会場：KKR ホテル

出席者数：13名 監事2名 陪席者5名

議 事：① 大阪女学院長選任規程の件

② 副理事長選任の件

③ 学院長選任の件

④ 評議員及び理事選任の件

⑤ 2008年度事業報告の件

⑥ 2008年度基本財産処分の件

⑦ 2008年度決算の件

⑧ 2009年度予算確定の件

第3回

日 時：2009年6月15日（月）19：00～ 会場：ホテルグランヴィア大阪

出席者数：14名 監事2名 陪席者4名

議 事：① 監事選任の件

② 職員人事の件

- ③ 大学学則変更の件
- ④ 大学規程制定の件
- ⑤ 理事長の職務代理の件

第4回

日 時：2009年8月3日（月）18：00～ 会場：ホテルグランヴィア大阪

出席者数：14名 委任状提出者1名 監事2名 陪席者2名

- 議 事：① 監事選任の件
- ② 規程管理規程改訂の件
 - ③ 保証人変更の件
 - ④ 新運営組織の件

第5回

日 時：2009年9月7日（月）19：30～ 会場：ホテルグランヴィア大阪

出席者数：15名 監事2名 陪席者2名

- 議 事：① 校地変更の件
- ② 校舎変更の件
 - ③ 耐震補強工事に伴う借入金の件
 - ④ 理事会協議会の運営の件
 - ⑤ 中学校高等学校教員組織編成制度委員会の件
 - ⑥ 規程管理規程の件
 - ⑦ 校地売却要望の件

第6回

日 時：2009年11月16日（月）18：00～ 会場：ホテルグランヴィア大阪

出席者数：15名 監事2名 陪席者4名

- 議 事：① 2010年度中学校高等学校生徒納付金の件
- ② 2010年度大学・短期大学学生納付金の件
 - ③ 中学校高等学校教員組織編成の件
 - ④ 学長候補選考委員会設置の件
 - ⑤ 大阪府育英会借入金借り換えの件
 - ⑥ 日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の件
 - ⑦ 校地売却要望・隣地購入交渉状況の件
 - ⑧ 協議体開催日程の件

第7回

日 時：2008年12月26日（土）12：50～ 会場：ホテルグランヴィア大阪

出席者数：14名 監事2名 陪席者3名

- 議 事：① 2010年度事業計画案の件
- ② 大阪府育英会借入金借り換えの件

- ③ 日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の件
- ④ 新図書館建設計画の件
- ⑤ 中期経営計画の件
- ⑥ 次期短期大学・大学学長選任の件

第8回

日 時：2010年2月22日（月）18：00～ 会場：ホテルグランヴィア大阪

出席者数：15名 監事2名 陪席者3名

議 事：① 2010年度予算概要案（第一次案）の件

- ② 新図書館設計施工業者選定の件
- ③ 隣地購入の件
- ③ 中学校・高等学校学則変更の件
- ④ 職員人事の件
- ⑤ 2010年度事業計画案の件

第9回

日 時：2010年3月29日（月）19：30～ 会場：ホテルグランヴィア大阪

出席者数：15名 監事2名 陪席者3名

議 事：① 隣地購入の件

- ② 2010年度事業計画案の件
- ③ 2010年度予算（案）の件
- ④ 短期大学・大学学則変更の件
- ⑤ 職員人事の件
- ⑥ 学長重任に伴う理事・評議員選任の件

（2）評議員会開催

寄附行為（2009年5月25日文部科学省認可）第24条により、選任された評議員32名によって評議員会を6回開催した。監事は全ての評議員会に出席した。

評議員会構成員（32名）

ウィリアム・ミルトン・エルダー（議長） 関根秀和（理事長）

浅野真理子 智原哲郎 船木徳枝 原田佳卓 長谷川洋一 広瀬弘道 河辺道子

河内鏡太郎 川岸清 川村直人 好田豊作 久保田蓉子 三木美樹 中垣芳隆

錦織一郎 西村耕 似田兼司 岡本言行 大下冨子 笹野芳照 杉山謙治

田中純子 玉利道子 寺岡国一 寺崎昌男 バンダビルト和子 山下辰夫 安田信人

以上の評議員は、5月25日就任

草原克豪（5月27日就任） 石田忠範（6月16日就任）

監事：時岡禎一郎（6月16日就任） 森本晴生（8月4日就任）

石田忠範（6月15日退任） 蔭山淳（8月3日退任）

第1回

日 時：2009年5月26日（月）17：20～ 会場：KKR ホテル

出席者数：29名 監事2名 陪席者3名

議 事：① 2008年度事業報告の件
② 2008年度基本財産処分の件

第2回

日 時：2009年5月26日（月）19：00～ 会場：KKR ホテル

出席者数：29名 監事2名 陪席者5名

議 事：① 2008年度決算の件

第3回

日 時：2009年6月15日（月）18：00～ 会場：ホテルグランヴィア大阪

出席者数：27名 監事2名 陪席者1名

議 事：① 評議員会議長選任の件
② 監事選任の件

第4回

日 時：2009年9月7日（月）18：00～ 会場：ホテルグランヴィア大阪

出席者数：28名 監事2名 陪席者なし

議 事：① 校地変更・校舎変更の件
② 耐震補強工事に伴う借入金の件

第5回

日 時：2009年12月26日（土）13：30～ 会場：ホテルグランヴィア大阪

出席者数：28名 監事2名 陪席者1名

議 事：① 2010年度事業計画案の件
② 大阪府育英会借入金借り換えの件
③ 日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の件

第6回

日 時：2010年3月29日（月）18：00～ 会場：ホテルグランヴィア大阪

出席者数：30名 監事2名 陪席者1名

議 事：① 隣地購入の件
② 2010年度事業計画案の件
③ 2010年度予算（案）の件

（3） 学院運営会議開催

学院運営会議規程に基づき、理事会から委嘱されている事項について、学院運営会議を計21回開催した。

招集者：関根秀和（理事長 学長）

構成員：西村 耕（理事 学院長） 好田豊作（副理事長）
長谷川洋一（理事 中学校長） 安田信人（理事 高等学校長）
智原哲郎（評議員 学長代行） 中垣芳隆（理事 学長代行）
寺岡国一（理事 副学長） 広瀬弘道（評議員 副学長）
坂本恭子（図書館長） 川村直人（評議員 短大・大学統括部長）
錦織一郎（副理事長 法人事務部統括部長）

第1回 2009年4月14日（火） 14：00～

- ・ 理事会予定議事の件
- ・ 図書館嘱託給与及び嘱託給与表の件
- ・ 教職員組合回答の件
- ・ キリスト教学校教育同盟総会及び関西地区協議会出席者の件

第2回 2009年5月19日（火） 14：00～

- ・ 2008年度事業報告の件
- ・ 2008年度決算概要の件
- ・ 新型インフルエンザ対応の件
- ・ 図書館利用規程改訂の件
- ・ 事務職員個人面談記録と今後の取り組みの件

第3回 2009年6月9日（火） 16：00～

- ・ 評議員会議長の選任の件
- ・ 監事選任の件
- ・ 職員採用の件
- ・ 規程管理規程改訂の件
- ・ 大学学則変更の件
- ・ 中高専任教員採用の件
- ・ 2010年度学生・生徒納付金設定の基本となる考え方の件

第4回 2009年7月7日（火） 14：00～

- ・ 中高専任教員採用の件
- ・ 監事選任の件
- ・ 規程改訂の件
- ・ 耐震補強工事の件
- ・ 理事長交替に伴う借入金保証人の交替の件
- ・ 2010年度学生・生徒納付金設定の基本となる考え方の件
- ・ 教職員組合回答の件

第5回 2009年7月21日(火) 14:00～

- ・ 運営組織案（寄附行為施行細則、協議体、担当理事制度）の件
- ・ 教職員組合関連事項の件
- ・ ミッションステートメント、学校名英文標記の件

第6回 2009年8月11日(火) 13:00～

- ・ 大阪女学院新運営組織に関わる検討の件
- ・ ミッションステートメント、学院名の英語標記の件

第7回 2009年8月26日(水) 13:00～

- ・ 2010年度学生・生徒納付金設定と財政予測の件
- ・ 校地及び校舎変更（河内長野グラウンド及び西館の変更）の件
- ・ 新運営組織案（協議会）の件
- ・ 125周年記念式典開催の件

第8回 2009年9月1日(火) 14:00～

- ・ 2010年度学生・生徒納付金設定と財政予測の件
- ・ 私学振興・共済事業団からの借入金（耐震補強工事関連）の件
- ・ 規程管理規程の確定の件
- ・ 土地売却要望の件
- ・ 教職員組合要求書への回答の件
- ・ ミッションステートメント及び学院名英語表記の件

第9回 2009年9月15日(火) 14:00～

- ・ ミッションステートメント及び学院名英語表記の件
- ・ 記念誌等の進捗状況の件
- ・ 同窓会・校友会事務所の設置・改修の件
- ・ 125周年記念式典の件
- ・ 125周年記念募金活動の件
- ・ 協議会開催に向けて準備事項の件
- ・ 借入金（大阪府育英会）借り換えの件
- ・ 短期大学・大学規程（編入学規程等）変更の件

第10回 2009年10月6日(火) 14:00～

- ・ 125周年記念式典延期の件

第11回 2009年10月20日(火) 16:00～

- ・ 125周年記念式典の件
- ・ 中期計画（施設、事業、人事、財政）の件
- ・ 隣地購入及び校地売却の件
- ・ 2010年度学生・生徒納付金設定（大学・短大、中高）の件
- ・ インフルエンザ対応策の件

第12回 2009年11月10日（火） 14:00～

- ・ 大学・短大学生納付金決定と財務予測の件
- ・ 中高教員組織編成制度の件
- ・ 学長候補選考委員会の設置の件
- ・ 大阪府育英会借入金借り換えの件
- ・ 耐震補強工事に関する私学事業団からの借入の件
- ・ 協議体運営の件
- ・ 隣地購入に関する交渉の件
- ・ 高等学校授業料無償化への対応の件
- ・ 125周年記念式典等の評価の件
- ・ 教職員組合団体交渉の件

第13回 2009年11月24日（火） 16:00～

- ・ 理事会協議体運営及び担当者確認の件
- ・ 高等学校授業料無償化に関する対応策の件
- ・ 職員クリスマスの件
- ・ ウェルミナ開学の日記念礼拝の件
- ・ 2010年度準備事項の件
- ・ 中期計画準備会の進捗状況の件
- ・ 同窓会・校友会事務所移転の件

第14回 2009年12月8日（火） 14:00～

- ・ 2010年度準備に関する作業予定（2010年1～3月）の件
- ・ 労働監督基準局の実地調査と対応策の件
- ・ 中期計画準備会の進捗及び理事会協議体の件
- ・ 高等学校授業料無償化の件
- ・ 情報公開請求の件

第15回 2009年12月22日（火） 16:00～

- ・ 2010年度事業計画案の件
- ・ 労働基準監督署の是正報告書案の件
- ・ 図書館建設計画の件
- ・ 高等学校授業料無償化の件
- ・ 学長選考委員会の件
- ・ インフルエンザ予防接種の件

第16回 2010年1月12日（火） 16:00～

- ・ 理事会協議体の運営の件
- ・ 労働基準監督署への是正報告の件
- ・ 図書館建設計画の進捗の件

- ・ 専任職員（大学・短期大学国際交流センター担当者）募集の件
- ・ 高等学校授業料無償化の件
- ・ インフルエンザ予防接種の件

第17回 2010年1月26日（火） 14:00～

- ・ 2010年度事業計画案の件
- ・ 2010年度行事予定案（理事会日程、学院運営会議日程等）の件
- ・ 理事会協議体の運営の件
- ・ 隣地購入の件
- ・ 経理規程施行細則、工事請負等要領及び稟議書の変更の件

第18回 2010年2月16日（火） 14:00～

- ・ 2010年度予算概要案の件
- ・ 隣地購入案の件
- ・ 職員人事案（定年延長者）の件
- ・ 図書館設計施工業者選定の件
- ・ 中高等学校則変更案の件
- ・ 2009年度事務職員評価の件
- ・ 経理処理方法（現金の取扱い）の変更の件

第19回 2010年3月2日（火） 16:00～

- ・ 事務職員評価の件
- ・ 事務職員人事異動の件
- ・ 中学校高等学校支援教育内規の件
- ・ 通門安全管理の件
- ・ 理事会協議体運営の件

第20回 2010年3月15日（月） 17:00～

- ・ 事務職員人事異動公表の件
- ・ 大阪女学院ブックレット完成・配布の件
- ・ 図書館建設委員会編成確認の件
- ・ 人事及び労務に関する事項の件

第21回 2010年3月23日（月） 17:00～

- ・ 2010年度予算案の件
- ・ 2010年度事業計画案の件
- ・ 学長任期満了に伴う理事・評議員及び理事長選任の件
- ・ 職員人事（大学・短大事務局新採用者、管理職登用）の件
- ・ 短大・大学学則変更の件
- ・ チャペル規程の改訂の件
- ・ 中高等学校評価に関する件

- ・ 中高教員の週1研修日設定に関する件

2. 寄附行為変更申請

法人組織の変革を目的とした寄附行為変更を完了した。

(2009年5月25日文部科学省認可改訂)

3. 規程の制定及び改訂

下記の規程を制定または改訂した。

学校法人大阪女学院資産運用規程	(2009年4月制定)
大阪女学院大学国際教育研究所規程	(2009年4月制定)
大阪女学院長規程	(2009年5月改訂)
物品購入等契約に係る取引停止等の取扱規程	(2009年4月制定)
就業規則	(2009年4月改訂)
給与規程	(2009年4月改訂)
学校法人大阪女学院寄附行為	(2009年5月改訂)
寄附行為施行細則	(2009年5月制定)
規程管理規程及び別表	(2009年9月改訂)
経理規程施行細則	(2010年4月改訂)
固定資産及び物品管理規程処理要領	(2010年4月制定)
ホールチャペル管理運営規程	(2010年4月改訂)

4. 指導監督官庁からの調査・検査及び指導

大阪労働基準監督署による実地調査(2009年12月)が行われ、勧告の後、一部の是正措置を実施し、継続して労務管理に関する是正を行うことが求められている。

II. 財務運営管理

1. 限られた財政資源を有効に活用するために、借入金の一部約 300,000 千円に関して、低利息の融資への借換えを実施し、借入れ利息約 18,000 千円の軽減に取り組んだ。
2. 文部科学省からの指導を受けて資産運用規程を新しく制定し、この規程に則って、資産の安全な管理のために、新発行の社債に限って運用を行った。

III. 施設整備管理

1. 教育施設の安全性を確保する観点から、大学・短期大学校舎の耐震補強工事を実施した。国庫から 84,309 千円の補助金、私学事業団から借入金 67,000 千円、自己資金 29,000 千円を充当した。
2. 125 周年記念事業の一貫として、募金を充当し、正門南側の水辺の整備工事を行い、生徒・

学生の憩いの場を作り出した。

3. 学術センター建設の構想及び計画に着手し、第1段階の取組みとして、大学・短期大学の図書館機能を中心とした棟の建設に着手することとして、ゼネコン3社によるプロポーザル競技を実施し、竹中工務店を設計・施工業者に選定した。2012年3月の竣工に向けて、工程、基本構想と建設棟設計、参考建造物の見学、学院内部の調整等の課題を確認し、計画推進に取り組んでいる。

IV. 危機管理と対応策

1. 新型インフルエンザ対策

新型インフルエンザ（2009年4月24日／メキシコ）の発生に伴い、対策本部及び対策本部会議（本部長：関根理事長 構成員：15名）を設置し、危機事態予測と対応策を検討し、125周年記念旅行（5月4日～5日）等のプログラムの中止、衛生備品の配備、最悪事態への準備を行った。神戸での患者発生時にも想定していた対応策を実行し、全学休校（5月18日～23日）等の処置もスムーズに実施した。

職員に対して、新型インフルエンザの予防接種を2010年2月に実施した。

2. 労働安全衛生委員会の再組織

職員の労務管理、安全・衛生に関する事項を取り扱う労働安全衛生委員会を再組織し、産業医も同席し、定例的な開催を行った。特に、職員の精神衛生に関する課題を中心に取り組んだ。

V. 125周年記念事業計画推進

1. 125周年記念募金

記念募金事業は、125周年の年度を迎えて同窓生を中心とした皆様方から多大な寄附・協力を得ることができ、2009年度末で82,187,500円が寄せられ、当年度の目標を達成することができた。特に、同窓会からは50,000,000円の寄附をいただいた。また、同窓生の方々から、絵画、彫刻を寄贈いただいた。

2. 125周年記念出版物

7冊の出版物（下記参照）により、大阪女学院が生徒学生と共に歩んできた歴史と建学精神、現在までの教育研究活動の成果を再び確認・検証することができた。

えのき茂る丘で (2009年5月16日出版)

Life in Japan (2009年8月31日出版)

ウキルミナ物語／125周年記念誌 (2009年10月8日出版)

Twenty - Five Years in Japan (2009年10月8日出版)

生徒・学生からの言葉集 (2009年10月8日出版)

国際社会への日本教育の新次元 (2009年10月15日出版)

東雲の丘の学校 (2010年3月31日出版)

3. 125周年記念式典（2009年10月26日開催）

10月8日に予定していた記念式典は、台風直撃により順延開催することになった。学院の教育活動の予定調整、会場手配、ゲストの予定調整、案内の再発送等に奔走したが、無事に終えることができた。このような大きな式典の変更が、多くの協力くださる方々に助けられて実施できたことは感謝であった。

午前には、中学校高等学校の生徒及び保護者が集い、午後には、短期大学・大学の学生、保護者、352名の来賓をお招きして、式典と祝賀会を催しました。どちらの部も、礼拝の中に、映像による学院の歴史を振り返り、現在の活動を披露し、神様の言葉に学びを深められた時であった。

4. 125周年記念同窓生の集い（2009年10月17日開催）

同窓生の皆様とともに、ヘールチャペルにて礼拝を行った後、祝賀会を催した。礼拝には448名、祝賀会には338名の方々が集い、学院の歴史を振り返る有意義な時となった。

5. 125周年記念プログラム（短期大学・大学：7月22日 中学校高等学校：9月26日）

短期大学・大学では、「世界の医療団」に加わり、エチオピアで医療援助活動を行っている赤羽桂子さんをお招きして、「国際医療援助～わたしの経験」の講演会と学生との交流を実施した。

中学校高等学校では、新潟でホームレス支援を行っている高橋美香さん、NHKで日曜美術館等のディレクターをしている加茂わかなさん、ニューヨーク・コーネル病院救命救急医師として働いている山内京子さんの卒業生3名をパネラーとしてお招きし、大阪女学院での学びとスピリットを基礎にして、生活していることを語っていただいた。在校生が将来への希望を発見するための良い機会となった。

6. 125周年記念事業

125周年記念募金を充当して、

①生徒・学生の憩いの場として活用するため、正門南側の水辺の整備工事

②旧管理人宿舎を改装し、同窓会・校友会事務所及び集会室の新設を実施した。